

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	ガッコウメイロウ ヲシロガクエン 学校法人 目白学園								
フリガナ大学の名称	メイロウダイクウ (Mejiro University)								
大学本部の位置	東京都新宿区中落合4丁目31番1号								
大学の目的	教育基本法及び建学の精神「主・師・親」（「主」は国家、社会への献身的態度、「師」は真理探究の熱意、「親」は人間尊重の精神）に基づき、創造的な知性と豊かな人間性及び応用的諸能力をそなえ、わが国の発展、国際社会の平和と福祉に貢献する主体性のある人材の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	現代社会におけるメディアの重要性を認識し、メディアに関する知識・活用能力を用いて社会の諸問題の解決に寄与しうる人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	メディア学部 [Faculty of Media Studies] メディア学科 [Department of Media Studies] 計	4	140 140	— —	560 560	学士 (メディア学)	平成30年4月 第1年次	東京都新宿区中落合 4丁目31番1号	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	目白大学 社会学部 <u>メディア表現学科</u> (廃止) (△ 120) (3年次編入学定員) (△ 5) ※平成30年4月学生募集停止 目白大学短期大学部 生活科学科 (定員減) (△ 5) (平成30年4月) 製菓学科 (定員減) (△ 10) (平成30年4月) ビジネス社会学科 (定員増) (△ 15) (平成30年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	メディア学部 メディア学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位			
		103科目	95科目	4科目	202科目				
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
新設分	メディア学部 メディア学科	8 (8)	6 (6)	3 (3)	2 (2)	19 (19)	1 (1)	157 (154)	
	計	8 (8)	6 (6)	3 (3)	2 (2)	19 (19)	1 (1)	— (—)	
既組	人間学部 心理カウンセリング学科	11 (11)	4 (4)	4 (4)	6 (6)	25 (25)	2 (2)	137 (137)	
	人間福祉学科	10 (10)	2 (2)	4 (4)	4 (4)	20 (20)	1 (1)	134 (134)	
織	子ども学科	5 (5)	2 (2)	8 (8)	3 (3)	18 (18)	1 (1)	109 (109)	
	児童教育学科	6 (6)	2 (2)	4 (4)	1 (1)	13 (13)	1 (1)	100 (100)	
設	社会学部 社会情報学科	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	5 (5)	136 (136)	
	地域社会学科	10 (10)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	1 (1)	139 (139)	
の	経営学部 経営学科	11 (11)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	129 (129)	
	外国語学部 英米語学科	10 (10)	3 (3)	7 (7)	0 (0)	20 (20)	1 (1)	120 (120)	
概	中国語学科	3 (3)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	84 (84)	
	韓国語学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	1 (1)	129 (129)	
要	日本語・日本語教育学科	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	1 (1)	139 (139)	
	保健医療学部 理学療法学科	6 (6)	5 (5)	4 (4)	3 (3)	18 (18)	1 (1)	55 (55)	
分	作業療法学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	1 (1)	15 (15)	1 (1)	54 (54)	
	言語聴覚学科	7 (7)	2 (2)	4 (4)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	62 (62)	
	看護学部 看護学科	14 (14)	5 (5)	4 (4)	15 (15)	38 (38)	0 (0)	55 (55)	
	計	119 (119)	37 (37)	54 (54)	36 (36)	246 (246)	16 (16)	— (—)	
	合計	127 (127)	43 (43)	57 (57)	38 (38)	265 (265)	17 (17)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		86人 (86)	65人 (65)	151人 (151)				
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計		87人 (87)	65人 (65)	152人 (152)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	49,716.30㎡	23,095.99㎡	14,083.86㎡	86,896.15㎡				
	運 動 場 用 地	0㎡	13,351.00㎡	13,800.00㎡	27,151.00㎡				
	小 計	49,716.30㎡	36,446.99㎡	27,883.86㎡	114,047.15㎡				
	そ の 他	1877.06㎡	0㎡	0㎡	1877.06㎡				
	合 計	51,593.36㎡	36,446.99㎡	27,883.86㎡	115,924.21㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
		22,447.43㎡ (22,447.43 ㎡)	41,654.71㎡ (41,654.71 ㎡)	17,170.58㎡ (17,170.58 ㎡)	81,272.72㎡ (81,272.72㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	81室	43室	57室	16室 (補助職員 0人)	2室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		メディア学部 メディア学科		18 室 (助教2名1室)					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	メディア学部メディア学科	394,158 [34,051] (362,158 [33,251])	1,179 [277] (1,171 [277])	185 [185] (177 [177])	12,463 (12,183)	0 (0)	0 (0)		
	計	394,158 [34,051] (362,158 [33,251])	1,179 [277] (1,171 [277])	185 [185] (177 [177])	12,463 (12,183)	0 (0)	0 (0)		
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数				
		4393.13㎡		708	297,445				
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
		4636.7㎡		テニスコート —					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開 設 前 年 度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	-千円	-千円
		共 同 研 究 費 等		1,300千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	-千円	-千円
		図 書 購 入 費	2,100千円	2,200千円	2,200千円	2,200千円	2,200千円	-千円	-千円
	設 備 購 入 費	141,696千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	-千円	-千円	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
	1,376千円	1,101千円	1,101千円	1,101千円	-千円	-千円			
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要			経 常 費 補 助 金 、 資 産 運 用 収 入 、 付 随 事 業 収 入 等						

大学等の名称	目白大学大学院								所在地
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
国際交流研究科	年	人	年次人	人		倍			
国際交流専攻	2	20	—	40	修士(国際学)	0.82	平成11年度	東京都新宿区中落合4丁目31番1号	
心理学研究科									
現代心理学専攻	2	20	—	40	修士(心理学)	0.52	平成20年度	同上	
臨床心理学専攻	2	30	—	60	修士(心理学)	0.63	平成14年度	同上	
心理学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(心理学)	0.22	平成16年度	同上	
経営学研究科									
経営学専攻	2	20	—	40	修士(経営学)	0.05	平成16年度	同上	
経営学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(経営学)	0.11	平成21年度	同上	
生涯福祉研究科									
生涯福祉専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学) 修士(保育学)	0.22 0.22	平成19年度	同上	
言語文化研究科									
英語・英語教育専攻	2	10	—	20	修士(英語学)	0.10	平成20年度	同上	
日本語・日本語教育専攻	2	10	—	20	修士(日本語学)	1.10	平成20年度	同上	
中国・韓国言語文化専攻	2	10	—	20	修士(中国言語文化) 修士(韓国言語文化)	0.85	平成20年度	同上	
看護学研究科									
看護学専攻	2	15	—	30	修士(看護学)	0.49 0.49	平成21年度	埼玉県和光市諏訪2丁目12番地	
リハビリテーション学研究科									
リハビリテーション学専攻	2	15	—	30	修士(リハビリテーション学)	0.53 0.53	平成24年度	東京都新宿区中落合4丁目31番1号	
既設大学等の状況	目白大学								
大学等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
人間学部	年	人	年次人	人		倍			
心理カウンセリング学科	4	120	3年次10	500	学士(心理学)	1.13	平成12年度	東京都新宿区中落合4丁目31番1号	平成29年度入学定員減(△20人)
人間福祉学科	4	100	3年次10	480	学士(人間福祉学)	0.80	平成16年度	同上	
子ども学科	4	140	3年次10	580	学士(子ども学)	0.99	平成19年度	同上	
児童教育学科	4	50	—	200	学士(児童教育学)	1.28	平成21年度	同上	
社会学部									
社会情報学科	4	120	3年次5	490	学士(社会情報学)	1.08 1.06	平成12年度	同上	平成29年度入学定員増(10人)
メディア表現学科	4	120	3年次5	490	学士(社会科学)	1.09	平成12年度	同上	
地域社会学科	4	80	3年次5	330	学士(地域社会学)	1.09	平成18年度	同上	
経営学部									
経営学科	4	130	3年次5	500	学士(経営学)	1.13 1.13	平成14年度	同上	
外国語学部									
英米語学科	4	80	3年次5	330	学士(英米語)	1.07 1.24	平成17年度	同上	平成29年度入学定員増(5人)
中国語学科	4	40	—	160	学士(中国語)	0.63	平成20年度	同上	
韓国語学科	4	60	—	240	学士(韓国語) 学士(韓国語教育)	1.21	平成20年度	同上	
日本語・日本語教育学科	4	40	—	160	学士(日本語) 学士(日本語教育)	0.97	平成20年度	同上	
保健医療学部									
理学療法学科	4	85	—	325	学士(理学療法学)	1.10 1.20	平成17年度	埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320番地	平成29年度入学定員増(5人)
作業療法学科	4	60	—	240	学士(作業療法学)	1.06	平成17年度	同上	
言語聴覚学科	4	40	—	160	学士(言語聴覚学)	0.99	平成18年度	同上	
看護学部									
看護学科	4	105	—	405	学士(看護学)	1.11 1.11	平成18年度	同上	平成29年度入学定員増(5人)

既設大学等の状況	大学の名称	目白大学短期大学部							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	生活科学科	2	80	—	160	短期大学士(生活科学)	1.06	昭和39年度	東京都新宿区中落合4丁目31番1号
製菓学科	2	80	—	160	短期大学士(生活科学)	0.90	平成19年度	同上	
ビジネス社会学科	2	60	—	120	短期大学士(社会経済)	1.14	平成22年度	同上	
附属施設の概要	なし								

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要														
(メディア学部メディア学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
ナセ初 1ミ年次	フレッシュマンセミナー	1前	1			○			5	4	3	2		
	ベーシックセミナー	1後	1			○			5	4	3	2		
	小計(2科目)	—	2	0	0	—			10	8	6	4	0	0
分野 横断 科目	大学生活と学問	1前		2		○								兼1
	知の探究法	1後		2		○			1					兼4
	「目白大学」を知る	1前		2		○			1	2				兼7
	科学的なものの見方・考え方	1後		2		○								兼4
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			2	2	0	0	0	兼16
学際 科目	雑穀文化を学ぶ	2後		2		○								兼4
	感性を磨く芸術論	2後		2		○								兼3
	知の対象としての恋愛	2後		2		○				1				兼5
	人間と遊び	2後		2		○								兼6
	社会生活のデザイン	2後		2		○								兼3
	子供とメディア	2後		2		○			2	1				兼5
	「観光」で読み解く現代社会	2後		2		○								兼3
	お金とつきあう	2後		2		○								兼2
	社会の中のことば	2後		2		○								兼6
	日本語再発見	2後		2		○								兼2
コトバの実験室	2後		2		○								兼2	
	小計(11科目)	—	0	22	0	—			2	2	0	0	0	兼39
異分野 入門 科目	心理学フロンティア	2前		2		○								兼6
	ボランティア入門	2前		2		○								兼9
	保育と乳幼児精神保健	2前		2		○								兼3
	現代教育入門	2前		2		○								兼4
	ビジネス偉人伝～先達に学ぶ生きるための智慧	2前		2		○								兼4
	ことばの「しくみ」と「はたらき」	2前		2		○								兼3
	東アジアの言語と文化	2前		2		○								兼2
	古典に学ぶ	2前		2		○								兼4
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼35
目課 ロー 探求 バル 科目	グローバルな視点で学ぶ社会と人間	3前		2		○								兼5
	サステイナブル社会を考える	3前		2		○								兼4
	食と農から考える地域と世界	3後		2		○								兼3
	世界の今を学ぼう	3後		2		○								兼2
		小計(4科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0
資格 関連 科目	日本国憲法	1前・後		2		○								兼2
	遺跡を科学する(考古学)	1後		2		○								兼1
	芸術と人間(芸術論)	1後		2		○								兼1
	政治のしくみ(政治学)	1前		2		○								兼1
	アジアの歴史と文化(東洋史)	1後		2		○								兼1
	西洋の歴史と文化(西洋史)	1後		2		○								兼1
	日本の歴史(日本史)	1前		2		○								兼1
	環境物理学	1後		2		○								兼1
	自然地理学概説	1後		2		○								兼1
	やさしい観光開発(観光開発論)	1後		2		○								兼1
	社会学	1前		2		○								兼1
	法学	1前		2		○								兼1
	社会学概論	1前		2		○								兼1
	漢文学の世界(漢文学論)	1前		2		○								兼1
	現代文学	1前		2		○								兼1
	倫理	1前		2		○								兼1
	小計(16科目)	—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	兼17

共通科目	国語	日本語読解演習Ⅰ	1前	1			○									兼4	
		日本語読解演習Ⅱ	1後	1			○										兼4
		日本語表現演習Ⅰ	2前	1			○										兼4
		日本語表現演習Ⅱ	2後	1			○										兼4
		専門レポート基礎演習	2後		1		○										兼3
		小計(5科目)	—	4	1	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	兼19
外国語	英語基礎(Fundamentals of English)Ⅰ	1前	1				○									兼4	
	英語基礎(Fundamentals of English)Ⅱ	1後	1				○									兼4	
	総合英語(Integrated English)Ⅰ	1前	1				○									兼4	
	総合英語(Integrated English)Ⅱ	2前	1				○									兼4	
	専門基礎英語(Basic English for Special Fields)	2後	1				○									兼3	
	English Test Strategies	1前		1			○									兼3	
	English Using CALL	1後		1			○									兼3	
	Advanced Reading	2前		1			○									兼1	
	Business English	2後		1			○									兼2	
	Communication in the Media	2前		1			○									兼1	
	Communicative Listening and Writing	2後		1			○									兼1	
	Dynamics of English Sound	2前		1			○									兼2	
	Film English	2後		1			○									兼1	
	Practical English Grammar	2前		1			○									兼1	
	中国語基礎Ⅰ	1前		1			○									兼2	
	中国語基礎Ⅱ	1後		1			○									兼2	
	中国語基礎Ⅲ	2前		1			○									兼1	
	韓国語基礎Ⅰ	1前		1			○									兼2	
	韓国語基礎Ⅱ	1後		1			○									兼2	
	韓国語基礎Ⅲ	2前		1			○									兼1	
	インドネシア語基礎Ⅰ	1前		1			○									兼1	
	インドネシア語基礎Ⅱ	1後		1			○									兼1	
	インドネシア語基礎Ⅲ	2前		1			○									兼1	
	フランス語基礎Ⅰ	1前		1			○									兼2	
	フランス語基礎Ⅱ	1後		1			○									兼2	
	フランス語基礎Ⅲ	2前		1			○									兼1	
	ドイツ語基礎Ⅰ	1前		1			○									兼2	
	ドイツ語基礎Ⅱ	1後		1			○									兼2	
	ドイツ語基礎Ⅲ	2前		1			○									兼2	
	スペイン語基礎Ⅰ	1前		1			○									兼1	
	スペイン語基礎Ⅱ	1後		1			○									兼1	
	スペイン語基礎Ⅲ	2前		1			○									兼1	
	応用中国語演習	2後		1			○									兼1	
応用韓国語演習	2後		1			○									兼1		
応用インドネシア語演習	2後		1			○									兼1		
応用フランス語演習	2後		1			○									兼1		
応用ドイツ語演習	2後		1			○									兼1		
応用スペイン語演習	2後		1			○									兼1		
小計(38科目)	—	5	33	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	兼67		
情報活用演習	情報活用演習Ⅰ	1前	2				○			1							
	情報活用演習Ⅱ	2後	2				○			1							
	情報活用基礎演習A	1前・後		2			○									兼2	
	情報活用基礎演習B	1後		2			○									兼1	
	情報活用応用演習	1前・後		2			○									兼2	
	情報活用特別演習	2前		2			○									兼1	
	教と情報	1前・後		2			○									兼3	
小計(7科目)	—	4	10	0	—		0	2	0	0	0	0	0	0	兼9		
スポーツ・健康	生涯スポーツ1	1前・後	1				○									兼2	
	生涯スポーツ2	2前・後		1			○									兼4	
	生涯スポーツ3	3前・後		1			○									兼2	
	健康科学	1前・後	1				○									兼1	
	健康科学演習(心とからだ)	2後		1			○									兼2	
小計(5科目)	—	2	3	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	兼11		

キャリアデザイン	専門とキャリアA	2前	1			○			1										
	専門とキャリアB	2後	1			○			1										
	仕事と社会	3前		1		○											兼1		
	キャリア研修Ⅰ	1前・後		2				○									兼1		
	キャリア研修Ⅱ	2前・後		2				○									兼1		
	小計 (5科目)	—	2	5	0	—			2	0	0	0	0	0			兼3		
学部基礎科目	メディアと社会	1前	2			○				1									
	メディア学概論	1前	2			○					1								
	メディアと心理	1後	2			○			1										
	メディア・リテラシー論	1後	2			○				1									
	メディア発達史	1後	2			○			1										
	メディア情報概論	1前	2			○			1										
	メディアとモラル	1前	2			○			1										
	メディア社会と法	1後	2			○											兼1		
小計 (8科目)	—	16	0	0	—			4	2	1	0	0	0			兼1			
コア領域	メディア社会論	2前	2			○			1										
	情報社会論	2前	2			○											兼1		
	美術入門	1後	2			○											兼1		
	消費社会論	1後	2			○											兼1		
	メディア産業概論	2前	2			○			1										
小計 (5科目)	—	10	0	0	—			2	0	0	0	0	0			兼3			
学部基幹科目	方法論領域	メディア技法入門	1前	2			○				1	1						オムニバス、 共同(一部)	
		造形入門	1前	2			○											兼1	
		デザイン技法Ⅰ	2前	2			○			1								兼1	
		デザイン技法Ⅱ	2後	2	2		○			1									
		メディア調査法Ⅰ	2前	2			○				1								
		メディア調査法Ⅱ	2後	2	2		○					1							
		Web技法	1後	2			○				1								
		写真撮影技法	1後・2前	2			○											兼1	
		編集技法Ⅰ	2後	2			○											兼1	
		編集技法Ⅱ	3前	2			○			1									兼1
		コンテンツ企画	1後	2			○												兼1
		メディア取材法	2前	2			○				1								
		メディア文章表現	3前	2			○			1									
		デジタル・プレゼンテーションⅠ	3前	2			○											兼1	
		デジタル・プレゼンテーションⅡ	3後	2			○											兼1	
		メディア身体表現	2後	2			○											兼1	
		メディア統計分析	3前	2			○											兼1	
小計 (17科目)	—	8	26	0	—			4	4	2	0	0	0			兼9			
メディアと社会・文化分野	メディア思想史 *	2後		2		○				1									
	放送論 *	2後		2		○				1									
	ジャーナリズム論 *	2後		2		○			1										
	インターネット・コミュニケーション論 *	2後		2		○				1									
	グローバルジャーナリズム論	3前		2		○			1										
	地域メディア論	2後		2		○					1								
	メディア・リテラシー演習	3前		2			○					1							
	メディア文化論 *	2前		2		○						1							
	音楽文化論	3後		2		○						1							
	サブカルチャー論	3前		2		○						1							
	多文化共生論	3前		2		○											兼1		
	教育とメディア	3前		2		○			1										
	エデュテイメントシステム制作演習	3後		2			○		1										
	出版メディア論	2後		2		○			1										
コミックス文化論	3後		2		○											兼1			
電子出版論	3後		2		○											兼1			
メディア社会・文化特講	3後		2		○						1								
小計 (17科目)	—	0	34	0	—			5	4	5	0	0	0			兼3			

展開科目	メディアと産業・消費分野	メディアとビジネス *	2前		2		○											兼1	
		イベント概論 *	2後		2		○			1									
		イベントプロデュース論	3前		2		○			1									
		イベント制作・運営演習	3後		2		○	○		1									
		広告論 *	2後		2		○				1								
		広告表現論	3前		2		○				1								
		広告プランニング論	3前		2		○				1								
		広告制作演習	3前		2		○	○			1								
		広報・PR論 *	2後		2		○												兼1
		社会デザイン論	3後		2		○			1									
		エンターテインメント論 *	2後		2		○					1							
		アニメーション制作演習Ⅰ	2後		2			○				1							
		アニメーション制作演習Ⅱ	3前		2			○				1							
		アニメーション制作演習Ⅲ	3後		2			○				1							
		サウンド分析演習	3前		2			○											兼1
		サウンド制作演習	3後		2			○											兼1
		イベント・広告プランニング特講	3後		2		○			1									
		エンターテインメント・プロデュース特講	3後		2		○					1							
小計 (18科目)	—	0	36	0	—	—	—	5	9	0	0	0	0	0	0	0	0	兼4	
メディアと表現・技術分野	デザイン論 *	2後		2		○			1										
	デジタル・アーカイブ論	3前		2		○												兼1	
	メディアアート	3後		2		○												兼1	
	メディア情報論 *	2前		2		○					1								
	映像表現論 *	2前		2		○				1									
	映画論 *	2後		2		○			1										
	映像制作演習Ⅰ	2後		2			○			1	1								
	映像制作演習Ⅱ	2後		2			○			1	1								
	映像制作演習Ⅲ	3前		2			○			1	1								
	映像制作応用演習	3後		2			○			1									
	ライブ番組制作演習	3前		2			○											兼1	
	シナリオ論	3前		2		○			1										
	ショートフィルム論	3後		2		○			1										
	映像制作技術論	3前		2		○						1							
	インタフェース論 *	2後		2		○			1										
	プログラミング基礎	2後		2			○					1							
	Webシステム	3後		2			○					1							
	情報ネットワーク論	3前		2		○			1										
インタラクティブアプリケーションⅠ	3前		2			○					1								
インタラクティブアプリケーションⅡ	3後		2			○					1								
映像表現特講	3後		2		○					1									
メディア情報特講	3後		2		○			1											
小計 (22科目)	—	0	44	0	—	—	—	7	6	9	0	0	0	0	0	0	0	兼3	
社会連携プログラム	メディア基礎演習A	2前		2			○		8	6	3	2							
	メディア基礎演習B	2後		2			○		8	6	3	2							
	メディア実践演習1	3前	2				○		8	6	3	2							
	メディア実践演習2	3後	2				○		8	6	3	2							
	メディア実践演習3	4前	2				○		8	6	3	2							
	メディア実践演習4	4前	2				○		8	6	3	2							
	インターンシップ入門	3前		2		○				1									
	インターンシップ (短期)	3後・4前		2				○	8	6	3	2							
	インターンシップ (長期)	3後・4前		4				○	8	6	3	2							
小計 (9科目)	—	8	12	0	—	—	—	64	49	24	16	0	0	0	0	0	0		
卒業研究	卒業研究	4後	4				○		8	6	3								
	小計 (1科目)	—	4	0	0	—	—	8	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計 (202科目)		—	65	290	0	—	—	116	94	50	20	0	0	0	0	0	0	兼253	
学位又は称号		学士 (メディア学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係											

卒業要件 及び 履修方法	授業期間等	
卒業要件：124単位 共通科目：28単位以上 専門教育科目：86単位以上(必修科目46単位、選択科目40単位以上) (内訳) 学部基礎科目 16単位必修 学部基幹科目コア領域 10単位必修 方法論領域 8単位必修および4単位選択必修 展開科目 選択した分野より18単位選択必修 うち、*を付した5科目は分野必修 社会連携プログラム 8単位必修およびメディア基礎演習A・Bより いずれか2単位選択必修 卒業研究 4単位必修 自由選択科目：10単位	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分
その他： ・学生は履修モデルを踏まえて分野を選択する。 選択した分野の下記科目は必ず履修すること(分野必修)。 メディアと社会・文化分野 メディア文化論、ジャーナリズム論、 インターネット・コミュニケーション論、メディア思想史、放送論 メディアと産業・消費分野 メディアとビジネス、広告論、広報・PR論、イベント概論、 エンターテインメント論 メディアと表現・技術分野 メディア情報論、映像表現論、デザイン論、映画論、インタフェース論 ・履修科目の登録上限は半期22単位とする。		

授 業 科 目 の 概 要			
(メディア学部メディア学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	初年次セミナー フレッシュマンセミナー	大学生活を有意義に過ごすために、分野の枠を超えて初年次の学生が共通に身につけるべき、基本的な態度・資質・能力などを育むことを目的とする。特に以下の目標を達成するための科目内容とする。①主体的に学習し行動することができる、②自分の時間を正しく管理することができ、規律正しい生活習慣と自学自習の習慣をしっかりと身につけている、③相手の立場を思いやる優しさの高い規範意識や倫理観を保持している、④好奇心や粘り強さなどの学びに対する基本的な態度とコミュニケーション力をつけている。なお、授業は本学の教授、准教授及び専任講師が主として担当・進行し、運営補助など授業の一部を助教が担う場合がある。	
共通科目	初年次セミナー ベーシックセミナー	それぞれの専門教育を受けるための前提として必要とされる基礎的な知識や能力(基礎学力)の基盤となる態度を身につけさせることを目的とする。特に以下の2つの目標を達成するための科目内容とする。①各学科での専門科目の学習への動機付けとすべく、関連分野に関する自発的学習への態度を養う②アカデミックスキルの一つとしての情報リテラシーの基礎を身につけ、これを基に自分にとって必要な情報を収集・分析することや、新たに有意義な情報を表現・発信することができる。なお、授業は本学の教授、准教授及び専任講師が主として担当・進行し、運営補助など授業の一部を助教が担う場合がある。	
共通科目	総合科目 大学生生活と学問	<p>新宿キャンパスの学生を対象とし、人文社会科学分野の学問の体系について基本的な知識を与え、多様なものの見方ができるようにする。われわれはどのような学問分野をもっているのか、それぞれの学問はわれわれにとってどういう意味をもっているのか、大学にはどのような学問が生きているのか、大学生が学問をすることにどのような意味があるのか、これらについて講述するとともに、学問(ディシプリン)形成の力学と背景を知ることにより、われわれが如何なる「現実」を生きているかについて考える。必要に応じて各専門分野よりゲストスピーカーを招き、質疑応答・討論を行う。</p> <p>(各回のテーマ) 1)導入:学問とは何か。2)哲学的な世界観。3)文学的な世界観。4)歴史学的な世界観。5)近代社会の学問Ⅰ。6)近代社会の学問Ⅱ。7)近代社会の学問Ⅲ。8)心理学的な世界観。9)教育学的な世界観。10)経済学的な世界観。11)日本民俗学の世界観。12)カルチュラルスタディーズの世界観。13)比較文化論の世界観。14)グローバリゼーションスタディーズの世界観。15)まとめ</p>	
	知の探究法	<p>(概要) 大学での学びの姿勢として、それまでの受験勉強に代表されるような結果だけを覚える勉強から、自ら問題点を発見し、それを自ら解決していこうとする姿勢に転換することが必要である。そこで本科目は、大学での学修への導入的科目として、各教員の専門の学問領域において、日常的な疑問や問題意識をどのようなプロセスを経て解明しようとしているかを体験的に知ることによって、大学での学びのあり方を知り、今後の学修に役立てることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(33 沢崎達夫/3回) 第1回目から第3回目までは、オリエンテーションの後、まず心理学の分野において、学生が興味を持つと思われる血液型と性格に関する話題を取り上げ、一般に流布されている俗説と、研究者がこのテーマを取り扱っている学術研究が、どのように異なっているかを明らかにすることによって、科学的に研究することの重要性を認識できるようにする。</p> <p>(36 六波羅詩朗/3回) 現在、そして将来の日本は、どのような社会となるのか。子供の生まれる数が少なくなる一方で、高齢者の総人口に占める割合は、社会全体として「年寄り」が多数を占めることを意味する。</p>	オムニバス方式

<p>共通科目</p>	<p>総合科目</p>	<p>しかし、人口推計のような単なる人口の変化で捉えるのではなく、社会のありようを「長寿社会」と「少子社会」と言う見方から対比し、今後、「人口減少社会」へ突入していくことが我々にとってどのような意味を持つことになるのかを考える。またその際に考えられる「多様性」(多様な価値意識や価値観)をさまざまな角度から考えていくことの重要性にも焦点をあてる。</p> <p>(3 原克彦/3回) 私たちは、氾濫する情報の中から必要なものを取捨選択するために、これまでに習得した知識を動員して判断し、生活や学習、社会活動に情報を活用している。さらには、自分の考えや思いを伝えるために新たな情報を創造・発信することも行っている。一方、最近私たちの生活圏に徐々に登場し始めているコミュニケーション型ロボットやAIも、人と会話するために必要な知識と情報を取り込むことや、推論や判断などに必要なデータを大量の情報の中から抽出して利用している。人と情報機器の「知能」についてロボットにも登場してもらい考える。</p> <p>(47 今林正明/3回) 3回の講義のなかで、企業の社会的使命、戦略、活動および業績がどのようにWeb上に示されているのかを知り、興味をもった企業についてレポートにまとめられるようになることを目指す。現代社会において、全ての人は、就職先としてだけでなく、消費者として、また、市民として企業と関わりを持っている。インターネット社会になって、「企業を知る」ための情報は、容易かつ安価に得られるようになった。しかし、「どのようにして、膨大なWeb上の情報を読めばよいのか？」という新たな課題が生まれた。この課題を知の探検によって解決しよう。</p> <p>(34 金澤裕之/3回) 「ことばは変わる」とよく言われる。このことは日本語の場合にも当てはまると考えられ、現代においても、さまざまなレベルでの変化や変容が続いている。ただし、しばしば話題になることの多い流行語のような一過性の強い場合を別にすると、案外、我々自身が意識していないような部分で、微妙な変化が生まれているケースがある。本担当部分では、そうした実例のいくつかを提示して、その背景にあると思われる理由やメカニズムなどについて、受講者と一緒に探究してみることにしたい。</p>	
<p>共通科目</p>	<p>総合科目</p>	<p>「目白大学」を知る</p> <p>(概要) 目白大学のいま、そしてこれまでとこれからの知り、目白大学で何を学べるか、また何を学ぶべきかを探る。本授業は学部・学科を超えたオムニバス形式で、新入生を対象に、目白大学の学びの原点、教養教育、キャリア教育の意義、及び目白学園・目白大学の創立から今日までの歴史、並びに目白大学と環境、地域、メディア、国際交流など、幅広いテーマを取り上げて、学生諸君が目白大学での学びと学生生活のヒントを発見するためのきっかけを提供する大学入門「自校教育」講座である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(51 飛田 満・70 今野裕之・42 太原孝英・1 三上義一・32 佐藤郡衛/2回) (共同) 本講座のねらい・内容・進め方などについて確認する。また目白大学の学びの原点について理解する。</p> <p>(33 沢崎達夫・13 牛山佳菜代・54 仲本なつ恵/3回) (共同) 目白大学の教養教育とキャリア教育の考え方について、また新宿キャンパスと岩槻キャンパスの学生生活について学ぶ。</p> <p>(70 今野裕之・42 太原孝英・51 飛田 満/3回) (共同) 目白学園の歴史、および大学のこれまでの発展について学ぶ。</p> <p>(51 飛田 満・1 三上義一・42 太原孝英・60 鈴木章生・11 鷺谷正史/5回) (共同) 目白大学の環境、メディア、国際交流について、また目白大学周辺の歴史文化と連携交流について学ぶ。</p> <p>(32 佐藤郡衛・51 飛田 満・70 今野裕之・42 太原孝英・1 三上義一/2回) (共同) 目白大学が目指す大学の将来像について考える。本講座のまとめと振り返りをおこなう。</p>	<p>オムニバス方式 共同</p>

<p style="text-align: center;">共通科目</p> <p style="text-align: center;">総合科目</p>	<p style="text-align: center;">科学的なものの見方・考え方</p>	<p>(概要) 文系の学生に、現代社会の基礎を形作り、人類文明の発展をもたらした自然科学、工学などの分野の基本的な考え方、方法論を紹介する。</p> <p>自然界、人間社会に潜む未解決問題を発見し、論理的思考、帰納的・演繹的論理によるモデルの構築、問題の解決、現実問題への適用法について講義する。</p> <p>現実世界を認識するために行われる、観測、実験等によるデータ取得には、観測機器の限界、人間の認識の不確実性によって、つねに誤差がつきまとう。この誤差を含むデータから真に有効な情報を取り出すための、統計的なものの見方などについても講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(25 平林隆一/3回) コペルニクス、ガリレオによる科学革命を経て、ニュートンに至る近代科学の発展について、科学史的な観点から講義を行う。その後、物理学におけるアインシュタインの「重力理論」、ニールス・ボーア、シュレジンガー、ハイゼンベルクらによる「量子力学」へのパラダイム変換を扱う。生物学におけるダーウィンの「進化論」、ワトソン・クリックによる「二重らせん」の発見によるパラダイム変換を取り上げる。最後に、地球科学における「プレートテクトニクス」、「岩石と生物との共進化」というパラダイム変換を講義し、科学的なものの見方・考え方を講義する。</p> <p>(26 張 元宗/4回) 科学現象や社会現象を観測・把握するには、観測するときのスケール、調査対象の規模の問題が生じる。このとき、観測機器の精度、調査対象の規模によって、取得データには必ず誤差が伴う。この誤差を伴ったデータに基づいて、事象の因果関係、仮説の妥当性等を論じるには、統計的なものの見方、方法が必須である。相関分析、回帰分析、構造モデル等を理解することによって、表面上だけでは見えない物の本質を見るということを学ぶ。</p> <p>(79 藤谷 哲/4回) 地球温暖化といった自然現象を例にあげると、気象学者による科学的な研究と、技術者による地球温暖化防止策技術の開発、経営者による地球温暖化防止策の採用に対する意思決定、政治家による温暖化防止に対するフレームワークの構築が少なくとも必要である。このときにそれぞれの階層から他の階層への情報のやりとり、コミュニケーションが不可欠である。また、学者、技術者と大衆との情報ギャップを解消するためにも、コミュニケーションが欠かせない。この講義は、情報とは何かということから始めて、科学・技術情報と博物館学等も含めコミュニケーションについて科学・技術の大衆化という観点から解説し、科学的なものの見方を学生に身につけさせる。</p> <p>(68 伊藤利佳/4回) 「二重らせん」を学者が発見したとしても、「生物工学」によって、その技術を品種改良に結びつけなければ、消費者の利益にはつながらない。そのためには、例えば「野菜工場」のように、企業が科学的知見を工業化することによって、低価格化、大量生産、高品質化、魅力的品質をもったものができあがって、はじめて消費者の利益につながるものとなる。ここでは、研究・技術開発の事例をいくつかとりあげることによって、科学における発見からその製品化を、そして消費者ニーズの発掘からその製品化を見ることによって、科学的なものの見方が、現実社会にどう役立っているのかを講義する。また、マーケティングと技術の関係についても講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p style="text-align: center;">雑穀文化を学ぶ</p>	<p>(概要) 化学肥料のない時代の日本の主食は、焼畑ではじめに栽培でき、環境適応性も広い穀類が基本であった。なかでも雑穀は、ミネラルや食物繊維の多い機能性食物であることから健康食品として注目されている作物である。そのため、日本の食文化や現代の生活習慣病対策をはじめとした食事としての機能を学ぶ上でも重要である。</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部)</p>

共通科目	総合科目	<p>本科目は、講義と研修合宿による体験を通じて、日本における雑穀の食文化、雑穀と健康、雑穀の栄養学、雑穀と食育について、多面的な視点から学び、食文化と食のdiversity, sustainabilityについて考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(71 石川正憲／4回) 初回にオリエンテーション、以降「雑穀と健康」をテーマに講義。アレルギー体質者、健康食品としての重要性から雑穀と健康について考える。 最終回には合宿のまとめと研究発表会を実施。講義での課題学習と、井川での体験学習に基づき、事前に準備した課題から、雑穀文化について総合的にまとめた発表・討論を行う。</p> <p>(72 佐藤幸子／2回) 「雑穀の栄養学」をテーマに講義。雑穀は、ミネラルや食物繊維といった機能性食物としての雑穀の役割を持つ。また、アレルギー体質者などへの健康食品としての重要性などからも貴重な作物であることを学ぶ。</p> <p>(29 荏原順子／2回) 「雑穀と食文化」をテーマに講義。これまで白米が重視され、アワ、ヒエ、キビ、ソバ雑穀は劣るという価値観の背景には、農山村文化に対する軽視や蔑視があった。昭和初期からの農山村の食生活を雑誌の記事からたどり雑穀食を知る。</p> <p>(132 長野美根／2回) 「雑穀と食育」をテーマに講義。現在の日本における、食生活の問題点として挙げられるのは「栄養バランスの乱れ」「食習慣の乱れ」「食べ残しなど廃棄食品の増加」「食全体に対する知識の不足」「日本の伝統的な食文化の衰退」などがあげられるが、雑穀を取り入れることにより、食生活の変化が期待される。食育として雑穀の取り方を考える。</p> <p>(71 石川正憲・林 久喜(筑波大学)／5回) (共同) 「井川雑穀文化研修」と題し、合宿学習を行う。静岡県井川市は、伝統的な雑穀文化・雑穀料理が残る地域である。このため、同地域で雑穀文化の継承を協力している、筑波大学林教授を外部講師として迎え、同地域での雑穀文化について、事前学習での課題を持って体験し、理解を深める。</p> <p>※ 20名程度を上限に全学から履修生を募集する。小グループに分け、ワークショップ形式で授業を進める。各担当者は、初回で概要を講義し、各グループに課題を設定させる。2回目でグループ毎に発表と討論を行い、発表内容は成果物として提出し、体験学習への課題をグループごとにまとめていく。</p>	
共通科目	総合科目	<p>(概要) 芸術は、人生を豊かにし、心を安らげる力を持っている。学生時代にさまざまな分野の芸術に触れることは、将来にも良い影響を与えると考えられる。本講義では、書道、茶道、華道といった日本の伝統文化や、多様な芸術に触れることを目指している。各分野の芸術や文化に触れることで、美しいものを観て、聴いて、触れて美しいと感じるこころを育み、芸術学、音楽学、造形学、芸術史、音楽史、デザインそして日本の文化などについて理解を深め、自らの感性を豊かにし、視野を広げることを目的としている。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(49 おかもとみわこ／8回) 芸術学から見た芸術とは何かについて、資料などを用いながら考えていく。その上で書道、華道、茶道といった日本の伝統的文化にも触れ、芸術的な観点からこれらの伝統文化に親しむことができように導いていく。状況に応じて、演習も含め、体験的に感性を磨くことを心掛ける。また、芸術分野で活躍している外部講師による講演を1回設ける。</p> <p>(38 三森桂子／5回) 音楽とは何か、なぜ音楽は人を引き付けるのか、といった視点から音楽の芸術性を考えてみる。また、歌うことはどのような意</p>	オムニバス方式

		<p>味があるのか、校歌を歌うことで体験的に学んでいく。さらに、外部講師を招き、多様な楽器に触れ、その音色の面白さなどを体験することで、音楽に関する感性を高めることを心掛けるようにする。</p> <p>(116 山中智省／2回) 表象文化についての研究を行う。日本のマンガ、アニメ、ゲームといったサブカルチャーは今、国内外でどのように捉えられているのか。本授業ではこれらのサブカルチャーを、商業的なエンターテインメントの枠組みにとどまらず、現代日本の文化・芸術として考えていくことで、多角的な視点から物事を捉える見方と、文化・芸術に対する新たな感性を育むことを目指す。</p>	
共通科目	総合科目	<p>知の対象としての恋愛</p> <p>(概要) 恋愛は、青年期の発達課題として重要であるばかりでなく、生涯を通じ、充実した人生の源となり、苦悩の源ともなり得る。そのため、社会学・心理学等の社会科学においては、恋愛の成立・崩壊機序や恋愛の心理社会的影響が研究され、文学・芸術学等の人文科学では、芸術作品の主題としての恋愛が研究されてきた。本授業においては、さまざまな学問領域における恋愛研究を学ぶことを通して、恋愛現象を知的かつ多面的に理解し、恋愛現象の学際的理解を導くことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(70 今野裕之／2回) 初回に授業計画の説明および、本科目の設置趣旨と関連する学問についての概説を行い、最終回に全体の俯瞰図および学問的意義について論じる。</p> <p>(35 小野寺敦子／2回) 発達心理学における恋愛。恋愛の心理的基礎としての愛着の発達について学ぶ。</p> <p>(99 宇野耕司／3回) 社会福祉学における恋愛。結婚制度の意味や結婚・子育てにまつわる社会保障制度について学ぶ。</p> <p>(116 山中智省／2回) 現代文学における恋愛。現代文学における主要なモチーフとしての恋愛について学ぶ。</p> <p>(11 鷺谷正史／2回) 映像作品における恋愛。映像作品における主要なモチーフとしての恋愛について学ぶ。</p> <p>(102 藤巻貴之／4回) 社会心理学における恋愛。恋愛の成立・崩壊機序と心理的影響について学ぶ。</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	<p>人間と遊び</p> <p>(概要) オランダの歴史学者ホイジンガは、人間の本質をhomo (ホモ) ludens (ルーデンス) <遊戯人、遊ぶ人>ととらえた。遊戯、即ち遊びこそが人間活動の本質であり、文化を生み出す根源だと考えた。人類が築き上げた輝かしい文化は、人間のこのような遊びの蓄積から築き上げられてきたと言える。本科目では、歴史学(世界史)、スポーツ活動、音楽活動、美術・造形活動の4分野から、「人間とは何か」という問いへ学際的にアプローチし、人間についての総合的考察を深めることを目的とする。4分野においては、一部演習的な活動を実施することになっている。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(37 田尻信壹／3回) 人間の歴史から見た遊び；人間の歴史と遊びの関係を、世界史の中の余暇、芸術、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷や意義を探究し、受講生に人間と遊びの関係を考察させ、第4回以降の授業の道標とする。</p> <p>(27 山本礼二・84 雪吹 誠・122 枝元香菜子／5回) (共同) スポーツ活動と遊び；人間の遊びをスポーツの視点から探究し、人間の文化活動にとつてのスポーツの重要性を受講生に気付かせ、人間と遊びの関係を考察させる。</p>	オムニバス方式 共同(一部)

		<p>(101 小林恭子/3回) 音楽活動と遊び；人間の遊びを音楽の視点から探究し、人間の文化活動にとっての音楽の重要性を受講生に気付かせ、人間と遊びの関係を考察させる。</p> <p>(103 佐藤仁美/3回) 美術・造形活動と遊び；人間の遊びを美術・造形活動の視点から探究し、人間の文化活動にとっての美術・造形活動の重要性を受講生に気付かせ、人間と遊びの関係を考察させる。</p> <p>(37 田尻信壹・27 山本礼二・84 雪吹 誠・122 枝元香菜子・101 小林恭子・103 佐藤仁美/1回) (共同) 最終回では、これまでの14回の授業を振り返ることで人間と遊びの関係を総合的に考察させ、homo(ホモ)ludens(ルーデンス)の意味について、自分なりの見解を構築させる。</p> <p>備考：15回の授業の中で、歴史学、スポーツや芸術活動等の専門家を外部講師として招聘し、受講生に文化の専門性について触れさせる(2回程度)。</p>	
共通科目	総合科目	<p>社会生活のデザイン</p> <p>(概要) 本講義では、「私たちは今、どのような時代に生きていて、これからどこに向かっていくべきか」という問いに関して、各自が考えるための基礎知識を提供する。さらにそれを活かし、社会をデザインする視座の理解と素養を学ぶことを狙いとしている。具体的には、社会生活と経済活動との関わりを軸にしながら、経済社会をかたちづくっている制度や思想の変遷、企業活動と社会との関係性の変化、生活者(消費者)の社会における役割の変化について、オムニバス方式で授業を行う。また内容の理解を深めるため、ワークショップを3回程度実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(100 廣重剛史/6回) 現代の経済と社会を理解するための「大きな見取り図」について講義する。具体的にはまず、世界と日本が直面している、格差の拡大や環境問題の現状を確認する。そして、その主たる原因とされる、我々の近代的なライフスタイルやものの見方・考え方について社会学的な観点から反省する。</p> <p>(74 長崎秀俊/4回) 社会を理解するには、その構成要素である「企業」や「生活者」の役割・変遷そして課題を理解する必要がある。社会変化の中で「企業」がおこなうビジネスや「生活者」の消費活動はどのように変わってきたのかを学んでゆく。</p> <p>(61 田中泰恵/5回) 現代の生活者(消費者)には、単なる商品・サービスの受け手としてではなく、社会、経済、環境などに消費が与える影響を考えて商品・サービスを選ぶなど、公正で持続可能な発展に貢献するような消費行動をとることが求められている。このような役割が求められるようになった歴史や背景を理解し、各自の社会参画のための基礎力を養う。</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	<p>子供とメディア</p> <p>(概要) 子供が接する絵本やアニメ、放送、情報機器など多様なメディアに関する諸問題を取り上げ、それらの仕事に関わってきた人の体験談や考え方、統計資料などの根拠をもとに子供に与える影響を考える。幼児期における絵本や童話、幼児期から大人まで広く接するアニメーション、テレビ、ゲームなどさまざまなメディアがこれまで社会に与えてきた良い影響を中心に取り上げ、それらをさらに進展させるための影の部分への子供の適切な対応能力について考える。これらを通して、子供の適切なメディア活用力への理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 安楽 豊/5回) 乳児期における絵本との出会いと影響、幼児期における絵本や童話の役割と影響、小学生と絵本・童話・物語、絵本や童話はどのように作られているかなどについて概論する。また、外部講師を招いて絵本におけるブックデザインの具体例とその効果や影響に関する講義とディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式

		<p>(11 鷲谷正史／4回) アニメーションに関する内容を中心に、「童話」や「漫画」とアニメーションの関係を概説する。また、具体的なアニメーションの制作現場で活躍する外部講師を招き、制作過程の実際などを紹介していただき、学生とのディスカッションを通して内容の深化を図る。</p> <p>(3 原 克彦／6回) 子供が利用するメディアの中でもさまざまな情報機器に関する内容を中心にその種類をはじめ、子供の生活や遊び、学びを支えるメディアについて統計資料とともにその内容を概論する。また、子供の遊びの一つであるゲームの開発現場の外部講師を招き、開発過程やネットゲームの実情を紹介していただきディスカッションを通して考えを深める。</p>	
共通科目	総合科目	<p>「観光」で読み解く 現代社会</p> <p>(概要) 「観光」は、どこに視点を置くかで多様なアプローチが可能となる。例えば、私たちの「行動」、観光客、地元住民、民間、行政の「社会関係」、観光客が訪れる地域の都市計画、まちづくりや観光地化によって生じるさまざまな問題を考える「社会システム」の次元や、国際的な人・モノ・カネの移動を考える「グローバル化社会」の次元などが挙げられよう。本講義では、「観光」という現象が関係する多種多様なトピックをもとに、現代社会の諸問題を読み解くことを目指す。</p> <p>(オムニバス形式／全15回)</p> <p>(40 堀内直哉／4回) グローバル化が進む現代社会における国際関係の諸問題と観光のあり方、訪日外国人旅行（インバウンド）の増加とともに問われているメディアが果たす役割、観光立国を目指す日本の産業経済の諸問題について講義を行う。</p> <p>(44 早川雅子／2回) 観光地化が進む中で大きく変わるものもあるが、その土地の伝統的な営みが捉え直されることもある。観光を通じて、改めて伝統文化や家族といった事象を見つめ直す授業を行う。</p> <p>(56 大西律子／4回) 現在の日本において観光がなぜ注目されるのか。各地のまちづくりや都市計画はもとより、観光地化する地域の自然環境等を活かした新たなツーリズムのあり方についても学ぶ授業を行う。</p> <p>(62 石井貫太郎／1回) 観光資源として活用される戦争遺産の事例を通して、「現代社会における平和とは何か」を見つめ直す授業を行う。</p> <p>(106 高久聡司／4回) さまざまな形で展開しつつある観光について、その一例として、ポピュラー文化、スポーツ、フードなど私たちにとって馴染みのある領域に着目し、現代社会における観光の特徴について考える授業を行う。</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	<p>お金とつきあう</p> <p>(概要) 好きか嫌いにかかわらず、私たちはお金なしでは生きていけません。そもそもお金とは何か、お金は何のために貯めるのか、お金を増やすためにはどうすればよいか、お金持ちは幸せか、借金はしない方が良いのか、会社のお金や税金といった、お金のまつわる歴史、ためになる話を、主に金融論（経済学）、会計学、法学という3つの視点から、やさしく解説します。毎日必然的につきあわなければならないお金についてよく学び、人生を豊かにする秘訣を身につけましょう。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(46 織田 薫／5回) 金融論の視点から、お金、金利、銀行の歴史と役割、お金の運用などについて学ぶ。</p> <p>(115 宮川 宏／5回) 会計学の視点から、お金の記録、計算のしかた、企業のお金について学ぶ。</p>	オムニバス方式

		(55 竹内 進／5回) 法学の視点から、お金をめぐる法律、法的問題、税金について学ぶ。	
共通科目	総合科目	<p>社会の中のことば</p> <p>(概要) 社会の中のことばを考察・分析する「社会言語学」についての理解を深める。言語と社会は密接な関係にあり、言語は民族、歴史、文化的背景から多大な影響を受けると同時に、言語がその社会の構築にも影響する。人間の持つ包括的な言語能力が、実際の社会においてどのように現れているのかを考察する。社会言語学の研究の歴史と領域、言語と社会階級、言語とジェンダー、若者ことば、言語政策などを取り上げ、さらには「コミュニケーションの言語学」として、ポライトネスとコミュニケーション、非言語コミュニケーションなどを扱う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(28 葉師京子／8回) ことばとその社会文化的背景との関係を理解する。地域方言、言語と社会階級、世界のリンガフランカ、言語政策と言語計画、さらに言語をめぐる性差を考察対象とする「言語とジェンダー」について学び、ことばの多様性と社会問題について考える。</p> <p>(73 河野秀樹／7回) 文化の定義・異文化とは何か、コミュニケーションとは何かを学ぶ。代表的なコミュニケーションモデル、コミュニケーションギャップのメカニズム、非言語コミュニケーション、カルチャーショックのメカニズムと異文化適応、異文化接触の意義と課題について理解を深める。</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	<p>日本語再発見</p> <p>(概要) 「日本語再発見」という科目は、言語（日本語）と教育に関する知識と能力を高め、日本語を多角的に考察することを目的とする。具体的には、(1)自身の日本語を客観的に捉えることを出発点とし、(2)社会の中で使われている日本語を考察し、(3)「やさしい日本語」で社会に働きかける力を獲得することを目指すものである。各々の授業内容を充実させるために、担当者の専門性を生かしてオムニバス形式で授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式 /全15回)</p> <p>(97 鈴木美穂／3回) 「コミュニケーションツールで使われる日本語」をテーマとし、会話以外で日常的に使っているさまざまなコミュニケーションツールで使われる日本語について分析し、自分たちが何気なく使っている日本語について考える。まず、コミュニケーションツール（SNSなど）について取り上げ、特徴、マナー、使い方、メリットとデメリットについて考える。考察を活かしてそれぞれのコミュニケーションツールの取り扱い説明書をグループごとに作成する。</p> <p>(76 高橋恵利子／2回) 「日本語の音声のバリエーション」をテーマとし、日常的に無意識に使っている日本語を意識的に捉え直す。特に音声面にフォーカスして考えることを目的とする。たとえば、語尾や句末のイントネーション、アクセントの平板化など、実際に自分たちの会話を録音して特徴を分析する。登場人物の感情や設定を変えることで、表現のバリエーションを考えるなどして、自分たちの言語表現を客観的に捉える。</p> <p>(50 久保田美子／2回) 「日本語の語彙のバリエーション」をテーマに、自称、他称、家族の中での呼称、挨拶表現など、自分が普段使っている語彙について、自己内省やグループディスカッションを通して客観的に捉え直す。自分の中にあることばのバリエーションの存在や他者との異同について気づくことを目的とする。</p> <p>(98 若井知草／3回) 「日本語の表記」をテーマに、日本語を世界のさまざまな言語と比較した際に、特に表記の面でどのような特徴があるのかを、日本語史も含めて検討する。また、留学生などの受講にも配慮し、海外の漢字の使用実態についても考察することを目的とする。日本語の表記の特性を知るために、具体的には、日本人の識字率、日本語表記の変遷、海外の漢字使用などを検討する。また、マンガと日本語の表記を知る。マンガが読める日本人の読解技術と日本語の表記の特性との関係を検討する。</p>	オムニバス方式

			<p>及びその日本語の表記の付はとの関係を検討する。</p> <p>(77 鈴木秀明／2回) 会話能力の構成要素を客観的に捉えるとともに、日頃の自身の会話能力を振り返る。また、ケース教材を使用して、コミュニケーション上の問題点の分析や解決策の提案に取り組む。具体的には、コミュニケーション能力の構成要素を明示し、各要素がコミュニケーションにおいて、どのように作用しているかを確認する。その後、コミュニケーション上の問題点が書かれた資料を配布し、内容を確認する。小グループでの討論を通して、問題点の背景の分析、および問題解決に向けて提案を導く。授業後半では、グループごとに結果を発表し、全体で共有する。</p> <p>(69 池田広子／3回) 「やさしい日本語」をテーマに、社会で使われている日本語を批判的に観察し、共生時代において自分たちが「日本語」の面のできることを検討する。「やさしい日本語」の特徴や成り立ちを概観した上で「やさしい日本語」と「一般的な日本語」を比較し、「やさしい日本語」を作る。例えば、観光地、オリンピック、地震で使われる「やさしい日本語」を確認し、やさしい日本語にするためのルールを理解し、グループで「やさしい日本語」を作り発表する。</p>	
共通科目	総合科目	<p>コトバの実験室</p>	<p>(概要) この授業では、人文学の対象として長く議論されてきた言語現象を自然科学的に研究する手法と最近の研究知見を紹介・議論し、受講生に仮説検証に基づく科学的思考の理解を促すと共に、言語ならびに学問の対象に対する多面的な視点の重要性を実感させることを目的とする。主な話題は、母語の発達と外国語学習、言語知識の構造と使用についての原理・規則性、言語の喪失、言語と思考の関わり、言語知識の在処としての脳の構造と機能などである。数学的処理の詳細は控え、実験のデモンストレーションや動画を通して、文系学部学生の数学・理科に対する恐怖心を払拭し、知的好奇心を喚起することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(63 時本真吾／8回) 失語症の症例や、機能的磁気共鳴画像法、脳波、近赤外光脳計測法を用いた生理実験を主に紹介・議論し、言語知識の神経基盤の考察を通して、受講生が言語と心、脳、体の関わりを実感できるように導く。</p> <p>(85 石原 健／7回) 音声の産出と理解に関する行動実験の例を主に用いて、言語産出・理解の心的メカニズム、また、言語知識と視覚、記憶、運動制御など他の認知機構との関わりを議論する。</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	<p>心理学フロンティア</p>	<p>(概要) 私たちは毎日の生活の中で、他人と関わりあうことで楽しさを経験する一方、人間関係そのものを苦しく感じたり、自分とはどのような存在なのかと疑問を抱いたりし、「人のこころ」にまつわる出来事への興味はつきない。本講義では、身近であるが正しく理解することが簡単ではない「人のこころ」を、科学としての心理学の様々な領域から紹介する。そして、「人のこころ」に対する多角的なアプローチに触れ、その仕組みや働き、それが反映される行動などを理解することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(82 河野理恵／3回) 認知心理学領域の研究紹介。初回ガイダンスおよび最終回総括。</p> <p>(80 丹 明彦／3回) 発達心理学領域の研究紹介。</p> <p>(86 杉本希映／3回) 学校カウンセリング領域の研究紹介。</p> <p>(31 田中勝博／3回) 絵画療法の研究紹介。</p> <p>(168 阿部美帆／3回) 社会心理学領域の研究紹介。</p> <p>(78 高橋 稔／3回) 心理テストの研究紹介。</p>	オムニバス方式

<p>共通科目</p>	<p>総合科目</p>	<p>ボランティア入門</p> <p>(概要) この科目では、特に、福祉関連団体、機関、施設等、また、国際ボランティアや災害ボランティア企業や学校教育の中でのボランティアもどかに行われているのかを理解し、その活動現状と意義、目的等も含め、ボランティアのあり方を学ぶ。多様なボランティア活動の講義から内容と目的、現状や課題を考える。また、現在行っているボランティアおよび将来的にボランティアを受け入れる側になることも視野に入れ、具体的なボランティア実践の方法についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(92 天野由以／8回) ボランティアとはなにか、自身のボランティア体験やボランティアの歴史から外観を知り、授業の道標とする。講義を通して理解したこと、考えたことを基に、自らのボランティア観を整理する。このための初回ガイダンスと最終回総括、および外部講師のコーディネーションも行う。</p> <p>(83 福島 忍・75 原田和幸／2回) (共同) 具体的なボランティア活動の現状と課題について実際に活動に関連する人から話を聞き理解する。 (1) 文化・教育・学習ボランティアの現状と課題 (2) 国際交流ボランティア・メディアでのボランティア活動 (3) 保健・医療・福祉ボランティアの現状と課題 (4) 災害ボランティアの現状と課題 (5) 音楽活動とボランティア</p> <p>(59 大崎広行／1回) 「福祉教育とボランティア」と題し、学校教育の中でボランティアを理解する。</p> <p>(87 平野寛弥／1回) NPO、NGOなど非営利団体とボランティアについて理解する。</p> <p>(121 滝島真優／1回) 企業の地域貢献事業とボランティアについて理解する。</p> <p>(120 鬼塚 香・119 久田はづき・118 泉谷朋子／2回) (共同) ボランティアを実践するにあたり、行くときに注意することや職員や利用者との関係作りについて、また、実際にボランティアに行き詰ったときの対応などを理解する。</p> <p>備考：15回の授業の中で、ボランティア活動や関連団体等の専門家を外部講師として招聘し、受講生に現状や課題について触れさせる(3回程度)。</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部)</p>
<p>共通科目</p>	<p>総合科目</p>	<p>保育と乳幼児精神保健</p> <p>(概要) 少子化の一因には、子育てに対する不安がある。これには乳幼児に関わった経験が少なく、子どもに関する知識を持っていないことが大きく影響していると考えられる。学生の中にも子どもと関わる経験がほとんどない学生は少なくないだろう。本講義は、そのような学生が子どもの発達や愛着に関する理解を持ち、子育てに必要な最低限の知識を備えることを目的とする。子どもの成長やそれに伴う親の関わり方を学ぶことで、乳幼児期の育ちが将来の基盤になることを知るとともに、世の中の子どもに対する広い視点を持てるようにする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(45 青木 豊／6回) 乳幼児がどのように他者を認識し、信頼関係を築いていくのか、またアタッチメントとは何か、ということについて学ぶ。さらに、虐待の問題や保育施設や養護施設での乳幼児と保育者の関係をアタッチメントの視点からとらえたりするとともに、アタッチメント障害に関して学ぶ。</p> <p>(104 松永愛子／3回) 子どもにとっての遊びとはどのような意味があるのか、という</p>	<p>オムニバス方式</p>

		<p>ことについて学ぶ。さらに、保育施設で子どもがどのように過ごしているか映像などを通して知るとともに、そこで展開される子どもの遊び、またそれによって育つ力について理解をする。</p> <p>(53 高橋弥生／6回) 現代社会における子育ての実態に関して理解し、子どもを育てる意味について考えていく。また、子どもが健全に育つために必要な知識として、食育、基本的な生活習慣、安全対策などについて理解を深める。</p>	
共通科目	総合科目	<p>現代教育入門</p> <p>(概要) 教職課程を履修していない学生を対象として、現代の教育についての基本的な理解を図る。教育の原型とは何かを確認し、どのように学校教育が成立し、子どもの可能性を追求する授業が探究されてきたか、生徒指導がどのように行われてきたか、現在の特別支援教育はどのように行われているかを考える。そして、グローバル化や情報化の進展する変化の時代に求められる国際理解教育、ICT教育についても考える。また、現在の公教育に対して別の角度から教育を考えさせてくれるシュタイナー教育についても考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(43 中山博夫／8回) 現代学校教育総論として、教育の原型と学校の成立、課題追求型授業(斎藤喜博の教授学の流れを汲む授業)、生徒指導の実践(受容主義、問題解決、学級づくり)、コミュニケーション能力の育成、シュタイナー教育について考える。外部講師のコーディネーションも行う。</p> <p>(95 横田和子／3回) 「国際理解教育の実践」をテーマに、国際理解教育や多文化共生教育の実践について学び、今進んでいるグローバル人材育成について考える。</p> <p>(79 藤谷哲／2回) 「情報教育の実践」をテーマに、変化の時代のICT教育の実践について学ぶ。</p> <p>(110 渡邊はるか／2回) 「特別支援教育の実践」をテーマに、以前の障害児教育が特別支援教育となって久しい。通常学級においてもLDや高機能自閉等が増えている。特別支援教育の実践について学ぶ。</p> <p>備考：15回の授業の中で、授業内容をより豊かにするために、外部講師の招聘を3名(3回)を予定している。</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	<p>ビジネス偉人伝～先達に学ぶ生きるための智慧</p> <p>(概要) 「ビジネス」は、現代社会を支える基本的な仕組みのひとつであり、その成功のために最も必要なことは、「人」と、人の集合体である「組織」から学ぶことである。本講義では、偉大な事業や実績を残していた経営者や先進企業の事例を題材に、その志やリーダーシップ、独創性などを、社会科学的な問題解決アプローチで考察する。また、成功者がはじめから順風満帆だったわけではない。過去の失敗や逆境も併せて紹介することで、現代社会を生き抜くための智慧を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(67 加藤孝治／4回) 商業や製造業で成功を収めた人物やビジネスを紹介する。 例) 紀伊国屋文左衛門、河村瑞賢、松下幸之助など</p> <p>(64 土井 正／4回) ITやインターネットの分野の先達から学ぶ。 例) スティーブ・ジョブズ、ビル・ゲイツ、ジェフ・ベゾスなど</p> <p>(39 吉原敬典／4回) ブライダル、旅行、医療・介護業などから、おもてなしの心の重要性を学ぶ。 例) フェリーチェ&ラソ、旅工房、青梅慶友病院など</p> <p>(105 原みどり／3回) 経営史および組織論、人的資源管理の観点からのまとめ。</p>	オムニバス方式

<p>共通科目</p> <p>総合科目</p>	<p>ことばの「しくみ」と「はたらき」</p>	<p>(概要) この授業の目的は、人間のことばがどのような構造を持ち、どのような機能を果たしているのかについての知見を得ることである。言語学の中でも理論的な側面に重点を置きつつ、母語話者が母語について持っている言語知識が実際の言語使用においてどのように活用されているのかを紹介する。この授業を受講することにより、普段何気なく話したり聞いたりすることばへの理解が深まり、より豊かなことばの使用への意識を高めることが出来る。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(81 大矢政徳／5回) 理論言語学、とりわけ統語論が研究対象としている様々な英語の事象(例:省略表現、語順の変化、代名詞の指示対象の解釈など)を例として取り上げ、その背後にある規則性とその分析の背景となっている言語観への理解を深める。</p> <p>(108 伊藤大輔／5回) 現代中国語について、統語論的観点と意味論・語用論的観点の双方より概観する。その上で、中国語を系統的にも類型的にも異なる日本語や英語などの諸言語と比較対照し、各言語の構造および機能にどのような共通点と相違点が存在するかということを明らかにする。</p> <p>(34 金澤裕之／5回) 我々の多くが、ふだん無意識に利用している「日本語」について、できる限り客観的な立場から、音声・音韻、文字・表記、語彙・語種、文法・構造、意味・表現、といった各方面に関して、具体的な例を多く挙げて受講者の興味を喚起しつつ、彼らとともに問題を考えていくという形で、考察を深めていきたい。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>共通科目</p> <p>総合科目</p>	<p>東アジアの言語と文化</p>	<p>(概要) 中国・香港・台湾など東アジアにおける中国語圏の社会について、それぞれの多様性や独自性を歴史・文化的側面から考察し、受講者の基礎的な理解を深めることを目的とする。また、「東アジアの中の日本」という視点を設定し、一国主義的な枠組みにとらわれない柔軟な世界観の形成を受講者に促す。授業の内容は、主に中国および台湾の歴史や文化、言語に関する概説で、2名の教員が専門性を活かし、オムニバス方式で授業を展開する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(41 鏡屋 一／7回) 東アジアのリング・フランカである漢字の誕生と漢字文化圏の形成過程について、また食文化の伝播を焦点に東アジアにおける文化触変(アカルチュレーション)について、さらに東アジアにおける近代化とポスト・モダニズムの諸問題について講述する。</p> <p>(48 胎中千鶴／8回) 台湾社会について、17世紀から現代までの歴史・文化を、中国大陸や日本列島との関係性を視野に入れつつ概観する。また、現代台湾の複雑な言語使用状況に関しても各種資料を提示し、その重層性の背景にある歴史的要因について講述する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>共通科目</p> <p>総合科目</p>	<p>古典に学ぶ</p>	<p>(概要) 本授業の「古典」は、人類文化の基層に関わる「名著」を意味し、授業では世界の東西の基層文化形成に影響力を有した各地域の名著たる古典を読解して、人類が育んできた文化の諸相を考察し、その豊かな世界観によって築かれる人間文化の本質を考察することをねらいとする。考察の共通性・統一性を図るため、年度ごとに「恋愛・結婚・家庭」「生と死」「宇宙・世界の形成」「民族と人間」等のテーマを設定し、各地域の古典の原文に親しみ、その解釈から各文化の特質を把握する。今年度は「神話伝承」を主題として考察を進める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(22 岩下 均／4回) 日本の大学に学ぶ学生として、受講学生はまず日本の古典に学ぶ。日本の古典の特質を理解し、日本文化を考察する。今年度は、日本の古典として『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』『伊勢物語』『源氏物語』などを取り上げる。</p>	<p>オムニバス方式</p>

共通科目	総合科目	<p>(58 小林 寛／3回) アジアの中の日本という観点から、アジアの古典に学ぶ。漢文を基層として、中国の古典はもとより、漢訳仏典も読解の範囲に加えて考察する。今年度は中国・インドの古典として『論語』『老子』『荘子』『山海経』『仏典』などを取り上げる。</p> <p>(42 太原孝英／4回) ヨーロッパの古典に学びヨーロッパの基層文化を理解する。今年度は、西欧の古典として、フランス悲劇の『フェードル』、民衆と神の関わりとして『グリム童話』、20世紀文学から『星の王子様』を取り上げる。</p> <p>(109 岡島 慶／4回) アメリカの古典を学ぶ。ネイティブアメリカンの古典、グローバル時代を主導するアメリカ文化とアメリカ文学の基層も考察することとする。今年度は、グローバルなアメリカの世界観の古典として『ネイティブアメリカンの神話』『ハロウィン伝説』『ホラー・ストーリー』『大統領就任演説集』にみる「神」の役割などを取り上げる。</p>	
共通科目	総合科目	<p>グローバルな視点で学ぶ 社会と人間</p> <p>(概要) 情報社会の拡大、経済活動のグローバル化で、世界が近く、利便性も高くなった一方で、地球温暖化による気象変動、宗教対立による戦争、貧困や経済格差、人口問題、教育問題、少子高齢化など、世界的規模で共通した課題は多い。しかし、人間はさまざまな課題に対して知恵を出し合い、社会との相互作用を通じて改善する努力をしてきた。この科目では、社会と人間に関わる課題である社会福祉、精神保健、心理、子育て、教育に関わるグローバルな課題に焦点を当て、世界の動向を理解し、改めて日本の現状について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(87 平野寛弥／3回) ヨーロッパにおけるソーシャル・インクルージョンの展開を学ぶ；ヨーロッパでは近年、ソーシャル・インクルージョン (Social Inclusion、社会的包摂) の実現が重要な政策課題となっている。講義ではソーシャル・インクルージョンの思想的源流、社会的背景、具体的な取り組みについて学ぶ。</p> <p>(66 井上牧子／3回) 精神医療保健福祉の現状を国際比較することから日本社会を考える；精神医療保健福祉の問題を考えることは、精神病や精神障害のことはもちろん、「依存症」「虐待」「ホームレス」「自殺」「高齢化」などの社会問題を考える糸口になる。また、これらの問題は、「人権とは何か」等、社会の在り方を問いかけている。日本の精神医療保健福祉の現状を諸外国、特に東アジアにある韓国の支援などと比較し、私たちの社会の在り方を考えたい。</p> <p>(107 笹川智子／3回) グローバル心理学とメンタルヘルス；心理学領域においては、世界規模での課題解決や社会的現象の探求を目指すための枠組みとして、近年グローバル心理学という分野が提唱されている。そのなかから精神的健康をテーマとして取り上げ、世界各国におけるメンタルヘルス対策の現状や疾患理解における文化の影響性、サービスの利用に際しての課題点などについて議論する。</p> <p>(89 荒牧美佐子／3回) 子育て・保育の国際比較；乳幼児期における環境は、人の生涯発達に大きく寄与することが多くの研究によって明らかにされている。各国の歴史や文化に根付く子育てや保育、幼児教育の違いや特徴について概説する。</p> <p>(57 石田好広／3回) 持続可能な開発のための教育論；地球環境問題や食糧問題、人口問題等のグローバル化社会の課題に対して、理解を深め、その課題解決のための方策を考え、よりよい社会づくりに貢献できる能力や態度の育成のための教育のあり方について考察できるようにする。</p>	オムニバス方式
	サステイナブル社会 を考える	<p>(概要) サステイナビリティ (持続可能性) という言葉は、かつては人口、資源、エネルギー、汚染等の地球環境問題の解決 (地球環境の持続可能性) を意味していたが、今日では貧困、格差、人権、ジェンダー、紛争等の解決 (人類文明の持続可能性) をも</p>	オムニバス方式

共通科目	総合科目		<p>意味するようになった。本講座では、地球環境と人類文明のサステイナビリティ、サステイナブル社会の実現に向けた主要なテーマを取り上げて、講義と演習の両形式を取り入れたワークショップ型の授業を展開する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(51 飛田 満／7回) サステイナビリティ、サステイナブル社会についての導入的授業から始める。グローバル問題としての地球環境問題とエネルギー問題、及び「持続可能な開発のための教育」(ESD)について、講義と演習の両形式を取り入れた授業を行う。</p> <p>(100 廣重剛史／4回) グローバル問題としての自然災害リスクと経済のグローバル化に伴って起こる諸問題について、講義と演習の両形式を取り入れた授業を行う。</p> <p>(88 山口 晋／2回) グローバル問題としての人口・都市問題について、講義と演習の両形式を取り入れた授業を行う。</p> <p>(40 堀内直哉／2回) グローバル問題としての平和・人権問題について、講義と演習の両形式を取り入れた授業を行う。</p>	
共通科目	総合科目	食と農から考える 地域と世界	<p>(概要) 日本の食糧自給率は非常に低い。世界的な食糧不足が懸念される中、「農」の中心である地方の農村では、農産品のブランド化、輸出促進および流通改革といった振興策が推し進められている。さらに、「食」をめぐる問題としては、量より質、そして安全性が消費者から強く求められるようになってきている。本講義では、「食」と「農」に焦点をあて、日本の食糧調達のしくみとTPPをはじめとする国際情勢による変化について学ぶ。生産から消費までのサプライ・チェーンを概括し、併せて消費者の倫理的な製品選択行動について考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(96 越川靖子／5回) 食・農産品のブランド化と国際化、地域活性化</p> <p>(24 寺崎克志／5回) 食・農産品をめぐる国際関係、経済学視点からの諸問題</p> <p>(90 井上綾野／5回) 食・農産品の流通と消費者行動</p>	オムニバス方式
共通科目	総合科目	世界の今を学ぼう	<p>(概要) 本講義では、地球市民として知っておくべき「世界の今」にかかわる政治・経済・社会面の知識と教養を身に付けることを目的とする。まずは、国際政治の新秩序、自由貿易と保護主義、企業のグローバル化とローカル化、社会格差と紛争、環境問題への取り組みといったテーマに沿って、地球全体を俯瞰する。そのうえで地域別(欧州、米州、アジア、中東、アフリカ)の現状・課題について学びながら、最後に日本の果たすべき役割について考えていく。世界の時事問題を複眼的に捉える視野を養い、自分の意見を持つようになる素地を作る。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(52 柴田真一／9回) 世界情勢を政治・経済・社会面の視点から世界を俯瞰したうえで、地域別の情勢について学習していく。</p> <p>(158 吉田晴美／6回) 世界の現状をふまえた日本の立ち位置、日本の果たすべき役割について考察していく。同時に、世界を複眼的に捉える視野を養う。</p>	オムニバス方式

共通科目	総合科目	日本国憲法	憲法や法律、とくに我が国の日本国憲法を身近なものとして理解することを目指す。日本国憲法は前文と103箇条の条文のみで構成される短い法律であるが、それは我々の国の設計図でもある。そこには、「ひとりひとりが『自分の』といえる人生をすごすことができる国」という、この国の理念と実現手段が書かれている。本講義では、個々の条文よりも憲法の全体像やそこにある知恵を学ぶ。さらに、日本国憲法が子どもたちを教育する指針を提供していることを学ぶ。	
共通科目	総合科目	遺跡を科学する (考古学)	考古学とは遺跡や遺物などから歴史を学ぶ学問である。本講義では、その基本的な考え方や考古資料が持つ多くの情報の基礎を講義し、学園内の遺跡などを活用して、より身近に考古学を理解できるようにする。また、遺跡から環境や災害を考えるなど、最新の研究を分かりやすく講義するとともに、史跡公園や世界遺産を通じて遺跡保存の必要性・重要性を理解出来るようにする。このことにより、考古学の各時代の特徴を理解したうえで時代区分を説明でき、遺跡から得られる多様な情報を理解する力の養成を目指す。	
共通科目	総合科目	芸術と人間 (芸術論)	芸術作品は、第一義的には、芸術家個人の精神文化の所産として鑑賞の対象になると同時に、彼 / 彼女が生きた時代・社会を映し出す鏡でもある。本講義では、そうした多面的意味を有する作品をよりよく理解するために、西洋美術を素材としながら、主題・素材・様式・形式・機能の変遷を歴史的に追跡していく。それは、私たち人間の生きた証しと今後を確認する作業にもなる。本授業では、芸術作品の鑑賞を通して、芸術と人間の関係を考え、人間の感性の豊かな可能性を認識し、同時に、受講者の鑑賞力を高めることを目指す。	
共通科目	総合科目	政治のしくみ (政治学)	昨今の日本社会およびそれを取り巻く国際関係は流動的であり、国内においても国外においても政治的課題が山積している。こうした状況下にあつて、国民は、平和、人権、平等、環境を擁護していく責務を担っている。本講では、こうした責務を果たすべく国内外の政治的諸課題を概観し、日本国民および世界人類としての見識・良識を修得する。さらに、国家および社会の体制基盤である国家の政治活動の論理を理解するために必要な理論および実証的知見の基礎知識を修得する。	
共通科目	総合科目	アジアの歴史と文化 (東洋史)	東洋史は、ヨーロッパ地域を除くユーラシア大陸、および北アフリカ地域についての歴史学の分野である。本授業では、アジアの自然地理学的特徴をふまえ、紀元前のアジア古代文明から、近代アジアの歴史までを概観し、アジア世界の文化的多様性や、現代につながる各地の諸問題の歴史的起源について考える。さらに、アジア各地の多様な歴史・文化について、先入観や通説にとらわれずに受け止め、各自が興味をもったこと、疑問に思ったことを自身で調べ探求する態度の養成を目指す。	
共通科目	総合科目	西洋の歴史と文化 (西洋史)	ウエストファリア条約(1648年)の頃に成立したヨーロッパ国際システムは、「国家主権の概念」「国際法の諸原則」「勢力均衡の政策」という三つの特質の上に築かれたと言われている。それは、主権国家を主な行動単位とする国際政治の誕生をも意味していた。この国際システムはやがて地球規模に拡大し、大きな変容を受けながらも、今日の国際社会に継承されている。この授業では、近代ヨーロッパ国際システムの成立過程を学んだ上で、第一次世界大戦へと至るその後のヨーロッパの国際社会の動きについて学習することを目的とする。	
共通科目	総合科目	日本の歴史 (日本史)	グローバル化が進行するほど、自国の歴史や文化についての理解は重要となる。したがって、日本列島に生まれ育った我々は、日本という国家や社会とその文化について理解している必要がある。本科目では個々の史実を記憶することよりも、日本史の大きな流れを理解することを重視して授業を進める。その際、日本の歴史が東アジアの国々とのかかわりのなかで展開してきたこと、またヨーロッパ諸国の影響を受けながら発展してきたことについて学ぶことで、日本の歴史を俯瞰的に理解することを目指す。	
共通科目	総合科目	環境物理学	自然と人との共存は地球環境を考える上で重要なテーマの一つである。自然をより深く理解するためには、自然をありのままに観察する力とその自然を支配する物理法則を体系的に理解する力が必要となる。単に、環境問題に関する現象を提示し論じるのではなく、人が自然環境に及ぼす影響や自然環境が人に及ぼす効果を配慮し、人と自然との相互作用を体系的に理解できる力を養う。さらに、気象庁・自治体などの気象や海象などに関する一次情報を収集し、観測されたデータの分析および解釈からその現象を科学的に理解する能力を養成する。	

共通科目	総合科目	自然地理学概説	本講義では、地形や土壌、海水・陸水等の地球表面について理解したうえで、気象等の地球表面の自然現象について学び、さらにこれらと生物や人間がいかに関わっているかを理解する。授業では、最初に自然地理学で扱われるテーマと用語について理解することを通して自然地理学の全体像を把握する。その上で、気象観測や地形図の判読など、自然地理学に必要な手法の習得を通して、気候や地形といった自然環境についての理解を深めていく。加えてGIS（地理情報システム）の利用法についても学ぶ。	
共通科目	総合科目	やさしい観光開発（観光開発論）	観光開発は地域経済の活性化、雇用創出、産業波及効果などが期待できる重要な部門であり、日本政府は現在、観光立国を総合的に推進するために様々な施策をおこなっている。本授業では、日本政府が重視しているMICEなどのインバウンド政策について紹介するとともに、グリーンツーリズムやエコツーリズムのように環境と調和した開発（持続可能な観光開発）についても解説する。講義を通して、観光学の基礎知識や応用的知識を習得し、現在の観光動向、観光庁の観光振興政策、旅行者の観光行動を理解することを目指す。	
共通科目	総合科目	社会学	本科目では、大学生が現代社会を理解するための一助として「社会学」という学問について学び、様々な問題や課題を有する現代社会を見る目を養うことをめざす。具体的には、社会学の主要な理論・学説を学び、社会学の基本的な概念について理解する。さらに、少子化問題・医療や福祉の課題・格差や階層化の問題等、現代社会を考える上での重要な論点について考察することを通して、われわれが生きる「社会」がいかなる特徴をもっているのかを理解する。	
共通科目	総合科目	法学	この授業では、法の本質を踏まえ、法についての一般的・基礎的な考え方を学び、「法とは何か」について基礎的な理解を得る。法についての知識の習得にとどまることなく、「法的にものを考える力（リーガル・マインド）」を養い、われわれの社会生活にかかわる法律問題をはじめ、時事的法律問題についても考察する力をつけることを目指す。さらに教育現場に関わる法（制度）の理解を通して、将来の職業に関する法的知識、法律問題に対応しうる力を養成する。	
共通科目	総合科目	社会学概論	マスメディアを通して普及・浸透する文化を社会学の立場から分析することにより、社会学への理解を深めることを授業の目標・ねらいとする。本講義では、テレビドラマ、テレビドキュメンタリー、ドキュメンタリー映画、ポップミュージックを取り上げ、これらを社会的に分析し、講義する。講義を通して、社会学の基本的な考え方を理解し、社会学の基礎的な概念を学び、さらに現代社会の諸問題に対する社会的アプローチを修得する。	
共通科目	総合科目	漢文学の世界（漢文学論）	本授業においては、漢文読解の基礎を習得しながら、あわせて漢文による漢文学の基層文化を理解し、その豊かな世界を知ることが授業のねらいとする。漢文の原典に親しみ、原典の解釈から漢文学の特質を把握できるようにする。『論語集註』、『唐詩選』、『史記』など漢文学の基本的資料をテキストとして、漢文学の世界に関する理解を深める。なお、本科目は国語教育の教職にかかわる「漢文学」の基礎を学ぶ科目としても設置される。	
共通科目	総合科目	現代文学	中高の教科書に掲載されている現代文学の作品を取り上げ、従来問題となってきた読みのポイントや、読解に必須となる基礎的知識を確認したうえで、意見交換をしながら新たな読みの可能性を探っていく。さまざまな視点から作品を読む方法を身につけるとともに、現代文学についての興味・関心を深めさせる。授業を通して、現代文学の作家と作品についての基礎的知識を身につけ、さらに作品を読むための方法を身につけるとともに、それを自らの言葉で表現できるようになることを目指す。	
共通科目	総合科目	倫理	倫理は、「共により善く生きる」生き方を探究する。第一に問われるのは、共に生きる人との交わり・交わりかたである。倫理へのアプローチは、交わる相手・交わりの方法によって多様になる。人との交わりを考えることを端緒にして、「共に生きること」に関心を深めたい。授業内容は、2部構成である。第1部「倫理入門」では、人と人との交わりの必然性を、人間存在の構造に着目して考える。第2部「現代の倫理」では、現代社会特有の倫理的課題を取り上げ、地球規模の交わりを理解し、より善い選択・生き方について考える。	

共通科目	国語	日本語読解演習Ⅰ	<p>本学の共通科目「国語」は、第一言語としての日本語の公共的使用能力を高め、もって市民性の涵養に資することを目的とする。そしてこの目的に沿って、高度な読解力と文章表現力（リテラシー）を養い、かつリテラシーを踏まえた口頭での応答・談話能力を養うための科目を設けることとしている。</p> <p>その一環として開設する「日本語読解演習Ⅰ」という科目は、現代の日常生活や社会生活で目にする多種多様な文章事例を読ませることにより、基礎的な語彙力と読解力の習得を目指す。</p>
共通科目	国語	日本語読解演習Ⅱ	<p>本学の共通科目「国語」は、第一言語としての日本語の公共的使用能力を高め、もって市民性の涵養に資することを目的とする。そしてこの目的に沿って、高度な読解力と文章表現力（リテラシー）を養い、かつリテラシーを踏まえた口頭での応答・談話能力を養うための科目を設けることとしている。</p> <p>その一環として開設する「日本語読解演習Ⅱ」という科目は、「日本語読解演習Ⅰ」の学習を前提に、専門性の高い文章や資料を読ませることにより、より高度な語彙力と読解力の習得を目指す。</p>
共通科目	国語	日本語表現演習Ⅰ	<p>本学の共通科目「国語」は、第一言語としての日本語の公共的使用能力を高め、もって市民性の涵養に資することを目的とする。そしてこの目的に沿って、高度な読解力と文章表現力（リテラシー）を養い、かつリテラシーを踏まえた口頭での応答・談話能力を養うための科目を設けることとしている。</p> <p>その一環として開設する「日本語表現演習Ⅰ」という科目は、読解力の涵養を図りつつ、実践的な学習を通じて論理的な文章を書くための文章表現力、ならびに口頭での応答・談話能力、発表能力（プレゼンテーション能力）の基礎を養う。</p>
共通科目	国語	日本語表現演習Ⅱ	<p>本学の共通科目「国語」は、第一言語としての日本語の公共的使用能力を高め、もって市民性の涵養に資することを目的とする。そしてこの目的に沿って、高度な読解力と文章表現力（リテラシー）を養い、かつリテラシーを踏まえた口頭での応答・談話能力を養うための科目を設けることとしている。</p> <p>その一環として開設する「日本語表現演習Ⅱ」という科目は、高度な読解力の涵養を図りつつ、「日本語表現演習Ⅰ」の学習を前提に、実践を重視した応用学習によって、より高度な文章表現力と口頭での応答・談話・発表能力を養う。</p>
共通科目	国語	専門レポート基礎演習	<p>本学の共通科目「国語」は、第一言語としての日本語の公共的使用能力を高め、もって市民性の涵養に資することを目的とする。そしてこの目的に沿って、高度な読解力と文章表現力（リテラシー）を養い、かつリテラシーを踏まえた口頭での応答・談話能力を養うための科目を設けることとしている。</p> <p>その一環として開設する「専門レポート基礎演習」という科目は、専門分野への橋渡し科目に位置づけられるもので、テーマ設定の手順、資料の収集と引用の方法、論理的文章の書き方など、基礎的なノウハウや文章表現力の習得を目指す。</p>
共通科目	外国語	英語基礎 (Fundamentals of English) I	<p>本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「英語基礎I」という科目は、現代英語で書かれた、内容豊かな書物を読み、語法や文法にも注意しながら、英語の読解力を養うことを目的とする。論理的思考力や異文化理解力の涵養にも資するような科目内容とする。</p>
共通科目	外国語	英語基礎 (Fundamentals of English) II	<p>本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「英語基礎II」という科目は、「英語基礎I」よりやや高いレベルの現代英語で書かれた、内容豊かな書物を読み、語法や文法にも注意しながら、英語の読解力を養うことを目的とする。論理的思考力や異文化理解力の涵養にも資するような科目内容とする。</p>
共通科目	外国語	総合英語 (Integrated English) I	<p>本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「総合英語I」という科目は、基本的な語彙やイディオムを学び、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を、基礎的なレベルにおいて総合的に養うことにより、運用能力の基礎を身に付けることを目的とする。</p>

共通科目	外国語	総合英語 (Integrated English) II	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「総合英語II」という科目は、「総合英語I」よりややレベルの高い語彙やイディオムを学び、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を、応用的なレベルにおいて総合的に養うことにより、高度な運用力を身に付けることを目的とする。	
共通科目	外国語	専門基礎英語 (Basic English for Special Fields)	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「専門基礎英語」という科目は、それぞれの専門分野で用いられる英語（専門英語）の基礎を学ぶことを目的とする。取り上げる分野は心理学、教育学、社会学、経営学、言語学、医療科学・看護学の6分野とする。	
共通科目	外国語	English Test Strategies	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「English Test Strategies」という科目は、1～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、各種検定試験をはじめとするさまざまな英語の試験を受験するために必要となる知識や、試験に合格するための英語力を養うことを目的とする。	
共通科目	外国語	English Using CALL	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「English Using CALL」という科目は、1～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、CALL教室でCALL教材を使用し、ディクテーション等を行うことによって、リスニング力の向上を図ることを目的とする。	
共通科目	外国語	Advanced Reading	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Advanced Reading」という科目は、2～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、比較的難易度の高い英文を読み、高度な英語読解力（リテラシー）を養うことを目的とする。	
共通科目	外国語	Business English	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Business English」という科目は、2～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、社内における日々のやりとりやミーティングをはじめ、顧客との取引や接客の場で使われる英語の表現や語法を学ぶことを目的とする。	
共通科目	外国語	Communication in the Media	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Communication in the Media」という科目は、2～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、英字新聞等のメディアにおいて使われる英語の表現や語法を学ぶことを目的とする。	
共通科目	外国語	Communicative Listening and Writing	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Communicative Listening and Writing」という科目は、2～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、会話やニュース等を聞き、要点と意見を書く練習を行うことによって、「聞く・書く」の2技能に関して、高度の英語力を養うことを目的とする。	

共通科目	外国語	Dynamics of English Sound	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Dynamics of English Sound」という科目は、2～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、自然なスピードの英語を聞き、英語の音声、イントネーションやストレスの特徴を学び、発音練習を通して英語らしい発音ができるようになることを目的とする。
共通科目	外国語	Film English	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Film English」という科目は、2～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、映画などの映像作品を通じて、英語の自然なスピードに慣れ、口語英語の特徴と語彙・イディオムを学ぶことを目的とする。
共通科目	外国語	Practical English Grammar	本学の共通科目「外国語（英語）」は、国際共通語としての英語の高度な運用能力を養うとともに、グローバル化した社会において教養を身につけた市民として行動するために必要となる論理的思考力や異文化への理解力を育むことを目的とする。その一環として開設する「Practical English Grammar」という科目は、2～4年次の学生を対象に選択科目として開設するもので、主として現代口語英語の「骨格」をなす文法事項を学ぶことを目的とする。
共通科目	外国語	中国語基礎Ⅰ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「中国語基礎Ⅰ」という科目は、現代中国語の発音と初歩的な文法および語彙に関する知識を獲得し、それらを運用する能力を養成することを目的とする。
共通科目	外国語	中国語基礎Ⅱ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「中国語基礎Ⅱ」という科目は、現代中国語の理解に不可欠な文法および語彙に関する知識を獲得し、それらを運用する能力を養成することを目的とする。
共通科目	外国語	中国語基礎Ⅲ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「中国語基礎Ⅲ」という科目は、現代中国語の文法および語彙に関する比較的高度な知識を獲得し、それらを運用する能力を養成することを目的とする。
共通科目	外国語	韓国語基礎Ⅰ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「韓国語基礎Ⅰ」は、韓国語の文法学習を主要な内容として、発音や語彙、表現などを基礎レベルから習得することを趣旨としている。
共通科目	外国語	韓国語基礎Ⅱ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「韓国語基礎Ⅱ」は、韓国語の文法学習を主要な内容として、発音や語彙、表現などを、基礎レベルを終え、初級レベルから習得することを趣旨としている。

共通科目	外国語	韓国語基礎Ⅲ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「韓国語基礎Ⅲ」は、韓国語の文法学習を主要な内容として、発音や語彙、表現などを中級レベルで習得することを趣旨としている。	
共通科目	外国語	インドネシア語基礎Ⅰ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「インドネシア語基礎Ⅰ」という科目は、基本的かつ実用的な表現を覚え、インドネシア語のコミュニケーション能力の基礎固めをすることを目的とする。	
共通科目	外国語	インドネシア語基礎Ⅱ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「インドネシア語基礎Ⅱ」という科目は、基礎文法を押さえながら実用的な表現を覚え、コミュニケーション能力をさらに身につけることを目的とする。	
共通科目	外国語	インドネシア語基礎Ⅲ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「インドネシア語基礎Ⅲ」という科目は、コミュニケーション能力の向上に重点を置き、インドネシア語の総合的な力を伸ばすことを目的とする。	
共通科目	外国語	フランス語基礎Ⅰ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「フランス語基礎Ⅰ」という科目は、基本的かつ実用的な表現を覚え、フランス語のコミュニケーション能力の基礎固めをすることを目的とする。	
共通科目	外国語	フランス語基礎Ⅱ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「フランス語基礎Ⅱ」という科目は、基礎文法を押さえながら実用的な表現を覚え、フランス語のコミュニケーション能力をさらに身につけることを目的とする。	
共通科目	外国語	フランス語基礎Ⅲ	本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「フランス語基礎Ⅲ」という科目は、コミュニケーション能力の向上に重点を置き、フランス語の総合的な力を伸ばすことを目的とする。	

共通科目	外国語	ドイツ語基礎Ⅰ	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「ドイツ語基礎Ⅰ」という科目は、アルファベットや基本的な語彙の発音の仕方を学ぶことから始めて、初歩的な基礎文法に慣れることを目的とする。</p>	
共通科目	外国語	ドイツ語基礎Ⅱ	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「ドイツ語基礎Ⅱ」という科目は、英語や日本語との共通性ないしは差異性を意識しながら、基本的な文法事項を全般的に習得することを目的とする。</p>	
共通科目	外国語	ドイツ語基礎Ⅲ	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「ドイツ語基礎Ⅲ」という科目は、基礎文法についての知識を基に、語彙や文法事項、表現方法に関して、中級レベルの語学力を身に付けることを目的とする。</p>	
共通科目	外国語	スペイン語基礎Ⅰ	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「スペイン語基礎Ⅰ」という科目は、基本的かつ実用的な表現を覚え、スペイン語のコミュニケーション能力の基礎固めをすることを目的とする。</p>	
共通科目	外国語	スペイン語基礎Ⅱ	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「スペイン語基礎Ⅱ」という科目は、基礎文法を押さえながら実用的な表現を覚え、スペイン語のコミュニケーション能力をさらに身につけることを目的とする。</p>	
共通科目	外国語	スペイン語基礎Ⅲ	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「スペイン語基礎Ⅲ」という科目は、コミュニケーション能力の向上に重点を置き、スペイン語の総合的な力を伸ばすことを目的とする。</p>	
共通科目	外国語	応用中国語演習	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通した複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用中国語演習」という科目は、現代中国語の文法および語彙に関する応用的な知識を獲得し、それらを運用する能力を養成することを目的とする。</p>	

共通科目	外国語	応用韓国語演習	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用韓国語演習」は、基礎的な韓国語の学習が終わった学習者を対象に、実用的な場面で韓国語を応用する能力を養成することを目標としている。</p>	
共通科目	外国語	応用インドネシア語演習	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用インドネシア語演習」という科目は、「インドネシア語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の学習を踏まえ、日常的な場面での応用力を身につけることを目的とする。</p>	
共通科目	外国語	応用フランス語演習	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用フランス語演習」という科目は、「フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の学習を踏まえ、日常的な場面でのフランス語の応用力を身につけることを目的とする。</p>	
共通科目	外国語	応用ドイツ語演習	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用ドイツ語演習」という科目は、習得した文法知識を活用して実際にドイツ語の文章を読み進めることにより、読解力を身に付けることを目的とする。</p>	
共通科目	外国語	応用スペイン語演習	<p>本学の共通科目「初修外国語」は、実用的な言語運用能力の養成と、外国語の学習を通じた複眼的な視点の涵養を目的とする。そしてこの目的に沿って、文化的多様性に目を見開かせるための工夫も凝らしながら、発音・文法・語彙に関する知識と初歩的な言語技能を身につけさせるための科目と、比較的高度な言語運用能力を養うための科目を設けることとしている。その一環として開設する「応用スペイン語演習」という科目は、「スペイン語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の学習を踏まえ、日常的な場面でのスペイン語の応用力を身につけることを目的とする。</p>	
共通科目	情報活用演習	情報活用演習Ⅰ	<p>本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸課題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「情報活用演習Ⅰ」は、目的に応じて主体的に情報を収集・整理・分析する能力と、情報が社会に及ぼすさまざまな影響を正しく理解し、情報モラルを堅持して、発信する情報に責任を持つ姿勢を養うことを目的とする。</p>	
共通科目	情報活用演習	情報活用演習Ⅱ	<p>本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸課題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「情報活用演習Ⅱ」は、情報の受け手側の状況を的確に把握して情報を加工・整理する力を養うとともに、ネットワーク上のコミュニケーションを正しく理解し、クラウド技術も駆使しながら互いに協働する力を涵養することを目的とする。</p>	
共通科目	情報活用演習	情報活用基礎演習A	<p>本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸課題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「情報活用基礎演習A」という科目は、情報技術の基盤を支える基本的な事柄を学ぶことにより、生涯を通じて情報技術を使い続ける持続的な力を涵養することを目的とする。特に、コンピュータの機能を理解し主体的に活用できる能力の育成に重点を置いている。</p>	

共通科目	情報活用演習	情報活用基礎演習 B	本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸課題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「情報活用基礎演習B」という科目は、情報技術の基盤を支える基本的な事柄を学ぶことにより、生涯を通じて情報技術を使い続ける持続的な力を涵養することを目的とする。特に、コンピュータおよびネットワークの基本原則を学ぶことに重点を置いている。	
共通科目	情報活用演習	情報活用応用演習	本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸問題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「情報活用応用演習」という科目は、情報技術の基盤を支える基本的な事柄を学ぶことにより、生涯を通じて情報技術を使い続ける持続的な力を涵養することを目的とする。特に、アプリケーションの活用をとおして、より実践的な能力の育成に重点を置いている。	
共通科目	情報活用演習	情報活用特別演習	本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸問題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「情報活用特別演習」という科目は、情報技術の基盤を支える基本的な事柄を学ぶことにより、生涯を通じて情報技術を使い続ける持続的な力を涵養することを目的とする。特に、さまざまな分野でICTの活用を支援できる能力の育成に重点を置いている。	
共通科目	情報活用演習	数と情報	本学の共通科目「情報活用演習」は、今日の情報処理技術の中心に位置するコンピュータ及び情報ネットワークの特性を正しく理解し、その上で、直面する諸課題の解決のために必要となる技術を適切に選択し、自在に情報を活用する能力を養うことを目的とする。その一環として開設する「数と情報」という科目は、統計的な手法を理解し活用する力や、情報を論理的に表現する力など、科学的な手法を駆使するための基礎的な能力を養うことを目的とする。	
共通科目	スポーツ・健康	生涯スポーツ 1	本学の共通科目「体育」は、スポーツや健康に関する知識と技能を体験的に学習することにより、①健康と体力の保持・増進、及び自己の生活習慣の確立を図るとともに、②フェアプレイ精神やスポーツマンシップ等の高い倫理観、（非言語）コミュニケーション力などを養い、もって市民性の涵養に資することを目的とする。その一環として開設する「生涯スポーツ1」という科目は、定期的に身体を動かすことにより、自分の体力を知り、計画的に運動を継続していくための基本的な知識や技能を身に付け健康と体力の向上を図ることを目的とする。	
共通科目	スポーツ・健康	生涯スポーツ 2	本学の共通科目「体育」は、スポーツや健康に関する知識と技能を体験的に学習することにより、①健康と体力の保持・増進、及び自己の生活習慣の確立を図るとともに、②フェアプレイ精神やスポーツマンシップ等の高い倫理観、（非言語）コミュニケーション力などを養い、もって市民性の涵養に資することを目的とする。その一環として開設する「生涯スポーツ2」という科目は、選択したスポーツの実践を通して基本的な知識や技能、フェアプレイ精神、（非言語）コミュニケーション力などを身に付けることを目的とする。	
共通科目	スポーツ・健康	生涯スポーツ 3	本学の共通科目「体育」は、スポーツや健康に関する知識と技能を体験的に学習することにより、①健康と体力の保持・増進、及び自己の生活習慣の確立を図るとともに、②フェアプレイ精神やスポーツマンシップ等の高い倫理観、（非言語）コミュニケーション力などを養い、もって市民性の涵養に資することを目的とする。その一環として開設する「生涯スポーツ3」という科目は、継続的なスポーツの実施で得た多様な技術や知識をもとに、将来教養ある市民へと成長していくための素養を身に付けることを目的とする。	
共通科目	スポーツ・健康	健康科学	本学の共通科目「体育」は、スポーツや健康に関する知識と技能を体験的に学習することにより、①健康と体力の保持・増進、及び自己の生活習慣の確立を図るとともに、②フェアプレイ精神やスポーツマンシップ等の高い倫理観、（非言語）コミュニケーション力などを養い、もって市民性の涵養に資することを目的とする。その一環として開設する「健康科学」という科目は、心身の健康について基本的な知識を学び理解するとともに、自らの生活習慣を振り返り、健康的な生活を送るための基礎を身に付けることを目的とする。	

共通科目	スポーツ・健康	健康科学演習 (心とからだ)	本学の共通科目「体育」は、スポーツや健康に関する知識と技能を体験的に学習することにより、①健康と体力の保持・増進、及び自己の生活習慣の確立を図るとともに、②フェアプレイ精神やスポーツマンシップ等の高い倫理観、(非言語)コミュニケーション力などを養い、もって市民性の涵養に資することを目的とする。その一環として開設する「健康科学演習(心と身体)」という科目は、心と身体についてより深い知識を学び、心理状態・運動・栄養が身体とどのように関連しているか理解させ、自ら考え行動するための実践力を養う。	
共通科目	キャリアデザイン	専門とキャリアA	本学の共通科目「キャリアデザイン」は、将来教養ある市民として自己の社会的責任を果たしていくために必要となる、基礎的な知識や能力(キャリアデザイン力)を養うことを目的とする。その一環として開設する「専門とキャリアA」は、自分にとっての学問の意味を考えさせ、とりわけ専門の内容と将来の職業や進路との関連性などを考えさせることを目的とする。具体的には、自己分析の結果を踏まえ、学科での専門分野の学びの目標設定をすることを通して、キャリアデザイン力を高めることに重点を置く。	
共通科目	キャリアデザイン	専門とキャリアB	本学の共通科目「キャリアデザイン」は、将来教養ある市民として自己の社会的責任を果たしていくために必要となる、基礎的な知識や能力(キャリアデザイン力)を養うことを目的とする。その一環として開設する「専門とキャリアB」は、将来の職業や進路にどのようなものがあり、専門の内容がそれらとどういったつながりがあるかを考察することにより、キャリアデザイン力を高める。具体的には、適性についての自己分析をもとに職種や業種を考え、専門科目との結びつきを考えること、インターンシップについて学ぶことに重点を置く。	
共通科目	キャリアデザイン	仕事と社会	本学の共通科目「キャリアデザイン」の一環として開設する「仕事と社会」は、就職活動を進めるための本格的な準備指導を目的とする科目である。具体的には就職活動に必要な実践的スキルである、自己PR、面接対応、ビジネスマナーおよび社会人基礎力等の修得を図り、仕事の適切な選択と早期離職の原因等の理解を深める。また、昨今の国内外の経済や社会の状況を理解しつつ、就職活動に向かう意欲を高め、心身のコントロール法を通じてあきらめない力の養成等の準備対策に重点を置く。	
共通科目	キャリアデザイン	キャリア研修I	本学の共通科目「キャリアデザイン」の一環として開設する「キャリア研修I」は、大学生活の早期に実社会体験をすることにより、社会性を高めるとともに広い視野を身につけ、自己と社会との関連について考察を深めることを目的とする。授業では、グループワークを中心として、ビジネスマナーや社会での働き方についての事前研修を受けた上で、大学が事前調査をふまえ精選した研修先で研修を実施し、事後研修と成果発表会を通し、自身の体験を振り返り、学びを深める。	
共通科目	キャリアデザイン	キャリア研修II	本学の共通科目「キャリアデザイン」の一環として開設する「キャリア研修II」は、「キャリア研修I」による学びをふまえ、より高度な内容の実践的プログラムとし、実社会における仕事について理解を深めるとともに、業種や職種を理解することで、自己の進路を選択する際に参考となる知識を得ることを目的とし、実習前に研修の目標を確認した後、実地研修にて実践的な業務を体験する。研修後は実体験によって得た学びを報告書にまとめることで振り返りを行い、学生自身の深い学びにつなげる。	
専門教育科目	学部基礎科目	メディアと社会	社会学は、社会の「学」として、18世紀フランスで誕生し、欧米での理論、学説史の蓄積もあり、扱う範囲は広い。人と人との関わり、人と人をつなげるもの、これらすべてが社会学の研究対象となる。授業では、社会学というレンズを通して「社会」をトータルに理解することを目指しながら、理論と実証、質的アプローチと量的アプローチ、ミクロとマクロなど、この学問固有の方法論を紹介することとする。具体的には、自己、家族、労働、文化などをはじめとする諸領域に対して、社会学がどのような理論を提唱し、またどのような方法でこれらを分析してきたかを説明する。また授業後半では、社会学的な観点で新聞、雑誌、テレビなどのメディアを分析する方法を説明する。これらを通して、今ここにある世界=現代社会を理解するための社会学的思考法を習得することを、この講義の目的としたい。	

専門教育科目	学部基礎科目	メディア学概論	この講義では、大学でメディアについて学ぶ上で基礎となる理論と歴史を学ぶ。身近なメディアを学問の対象としてとらえる視座を身につけるために、まずは学問の世界においてメディアはどのように考えられてきたか、その理論的変遷について学ぶ。また、メディアの歴史や具体的な使用法、それらをめぐって起こったさまざまな議論を検討しながら、この社会でメディアはどのような役割を担ってきたかを考える。こうした作業を通して、これから大学でメディアを学問的に研究する意義を理解することを目指す。	
専門教育科目	学部基礎科目	メディアと心理	この講義では、メディアが私たちの日常生活で果たしている役割や影響について、心理学的視点から論じる。メディアを介して行うコミュニケーションは、情報のやり取りだけでなく、人の心理や行動に何らかの影響を与えることがある。それらの影響について、講義では理論的な背景と実例を基に論じていく。内容としては、まずメディアが媒介する人間の社会的コミュニケーションに関する基礎的な諸概念や諸理論について概観し、その後メディア・コミュニケーションの心理的影響に関する理論と、その具体例を取り上げてメディアと心理についての理解を深めていく。メディアの心理的影響に関する具体的なテーマとしては、ニュースや報道による人々の社会的現実認知・世論への影響、映画やテレビドラマなどの娯楽的コンテンツの心理的影響、携帯電話やソーシャルメディアの利用による心理や行動への影響などを取り上げる。	
専門教育科目	学部基礎科目	メディア・リテラシー論	この講義では、現代のメディア社会に注目し、テレビ、新聞、雑誌・書籍、ソーシャルメディア、地域メディア（CATV、フリーペーパーなど）などに関して、各媒体の構造と表現の特徴について検討を進める。具体的には、メディア・リテラシー（メディアを批判的に読み解く能力）を理解するための前提となる基礎概念及びメディア環境・文法の特徴について概説を行った後に、実際のテレビ番組（ニュース・ドラマなど）、新聞記事、雑誌記事、ネットコンテンツなどを題材として、その特徴を分析していく。これらの学習を通じて、メディア・リテラシーの総合的向上及び自らが情報発信者となるための手法を修得することを目指す。	
専門教育科目	学部基礎科目	メディア発達史	この講義では、主としてメディアの技術的発達の過程について学ぶ。電信電話などの通信技術や写真・映画などの記録伝達の方法は、どのように生みだされ、それが人類に与えたインパクトは次にいかなる社会的・技術的変革をもたらしていったのか。ラジオ、テレビなどの電子機器の普及、衛星通信やENG（電子ニュース取材）による“メディア爆発”、そしてコンピュータの誕生によるデジタル革命、インターネットやスマートフォンの普及などを時系列的にとりあげながら、メディア機器の発達の歴史、その原理や構造への理解を深めながら、メディア技術と人間社会との重要で複雑な相互関係性を考えていく。	
専門教育科目	学部基礎科目	メディア情報概論	この講義では、メディアに関する内容を学習する上で必要になってくる情報技術（IT）の基礎に関する内容を講義による概要把握とともに、e-learningによるドリル学習や小テスト、課題、レポート作成などの個別学習によって理解の深化を図る。具体的には、日々利用しているスマートフォンやパソコンの構造、画面入力や音声入力等の人とメディアの情報のやり取り（ヒューマンインターフェイス）、ゲームやアプリ、検索などの仕組み、これらを支えるネットワークやデータベース、AIなどの基礎的な内容を理解する。また、健全な情報社会を構築するために必要なセキュリティに関する技術や法律の理解ならびに態度を身につける。	
専門教育科目	学部基礎科目	メディアとモラル	この講義では、メディアの進展とともに複雑になってくる情報倫理に関する基礎的な内容を理解する。また、情報倫理に関する法律や知識の定着、意見の共有と深化を図る場面でe-learningや電子会議を有効活用する。具体的には、携帯電話やスマートフォン、携帯ゲーム機、テレビ、ラジオなどのメディアの利活用によって起こるさまざまな事象を取り上げ、それらが抱えている問題点を掘り下げながらそれぞれの考えを整理する。一方で、情報の拡散性や保存性などの特性を理解することで回避できる事件や事故などを取り上げ、情報の科学的な理解が情報社会の構築に必要なモラル形成の基盤の一つであることを理解する。	

専門教育科目	学部基礎科目	メディア社会と法	<p>この講義では、メディアを取り扱う上で基本となる著作権法の理解を中心に、メディア社会と法について学ぶ。その際、インターネットの普及が国境のない世界を創出し、グローバル化によって、新たなつながりを生みだしている現状を学んだ上で、インターネット黎明期に喧伝された市民革命も多様な表現空間も現出せず、「サイバーユートピア」が実現することはなかった点を検討する。そして、企業、国家、家族など旧来の組織の内外が直接つながり、従来の境界が失われていくなかで、サイバー空間で人々がどのようにつながり、ビジネスが行われているのか、そのためにはどのように統治されていくべきなのか、メディアの果たすべき役割を中心にして考える。</p> <p>講義では次の事例を取り上げて検討する。グーグルブック検索とフェアユース、アマゾンの消費税問題、スキャンによる海賊本問題、ダウンロード刑罰化、TPPと著作権、マンガの二次創作、電子書籍の価格拘束、孤児作品など。</p>	
専門教育科目	学部基礎科目	メディア社会論	<p>メディアは社会において発達し、社会とそこに生きる人間に大きな影響を及ぼしてきた。この講義では、メディアとメディアを介したコミュニケーションが社会においてどのような役割や機能を果たしているかを論じ、メディアと社会の関係を理解することを目的とする。内容としてはまず大衆社会論、情報社会論など、これまでメディア社会について述べられてきた諸理論を概説する。次にメディアが社会に影響を与える具体的な例として、世論、政治、戦争、環境問題などの具体的なテーマを取り上げ、社会における諸問題にメディアがどのような役割を果たしているか実例を挙げて示していく。また、近年のインターネットなど新たなメディアの登場と普及により、今後メディアがどのように社会と関わり、社会を変容させていくかを考察する。</p>	
専門教育科目	学部基礎科目	情報社会論	<p>現代社会は、コンピュータのネットワークがそのインフラストラクチャー（社会基盤）を形成している社会である。このコンピュータネットワークの拡大とデジタル化の進展は、アナログメディアとデジタルメディアが“共存”する、ハイブリッドな情報環境を生み出した。本講義ではこうした状況認識の下、デジタル化の進展が社会をどのように変えてきたのかを検討する。具体的には、コンピュータの誕生からインターネットの成立、ソーシャルメディアの歴史と機能、デジタル化にともなうメディアコンテンツの変容などをテーマに、それぞれの変化がいかなる社会背景の下で起こり、またこれらの変化が社会にどのような影響を与えたかを考えていく。</p>	
専門教育科目	学部基礎科目	美術入門	<p>この講義では、「美術とは何か」について学ぶ。美術とは芸術の一分野であり、表現者と鑑賞者が互いに作用し合う活動である。特に視覚的に表現された造形芸術を美術という。この観点から先ず古代美術から近代・現代美術までの美術史を学びながら、人類が残してきたさまざまな美術作品を鑑賞し客観的に美術を捉える鑑賞力を養成する。更に海外や国内の代表的な美術家を取り上げ、その美術家の作品や人生、思想、哲学、社会に与えた影響などを知ることで表現者の視点について理解を深める。さまざまな美術作品や美術家について学ぶことで主体的な審美眼を養成し独創的な発想力の基礎を養成する。</p>	
専門教育科目	学部基礎科目	消費社会論	<p>消費社会論は、私たちが普段何気なく行っている「消費」という行動を研究対象にした学問である。本講義では、この消費社会論の理論的系譜をたどりながら、特にメディア文化とのかかわりにおいて、人びとが「何を、どのように」消費してきたのかを学ぶ。具体的には、19世紀に迎えた資本主義の発展期から、第二次世界大戦後の「ゆたかな社会」を経て、20世紀後半以降のポストモダンの時代へと至るメディア文化の変遷を学びながら、その消費スタイルの変化が持つ意味について検討する。これらを通して、私たちの身近にある文化を社会学的に読み解くための視点を身につけることが、本講義の目的である。</p>	
専門教育科目	学部基礎科目	メディア産業概論	<p>現代は、人類史上最大のメディア社会となっている。私達の身の周りにはメディアが溢れ、膨大な情報やメッセージが飛び交う。現代のメディア産業とはどのようなものなのか、どのような構造をしているのかを理解することで、メディア業界を進路とする際の指針とできる。主要なマスメディアのみならず、空中、街、公道等をもメディア化するメディア開発の視点まで広く紹介する。プラットフォームであるWEBと、体験価値を伝えるリアルメディアであるイベントとのコラボレーション事例を通し、メディアミックスからクロスメディアへと進化を続けている、現在進行形のメディア事情を紹介する。</p>	

<p>専門教育科目</p>	<p>学部基幹科目</p>	<p>メディア技法入門</p>	<p>(概要) この演習は、学部で制作系の専門演習を学ぶ上で入門となる科目であり、パソコンを利用した基礎的なデジタル表現技法や情報発信の方法および基礎知識を段階的に学習する。実際の演習を通してメディア技法の基礎力を養成し、より高次の専門演習へと円滑な接続を図ることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 皆川 武・17 馬場一幸/3回) (共同) 演習の概要と目標を理解し、学部に設置されたパソコンを利用して、ログインやOSの基本操作、ファイル管理等の基礎技法や知識を習得する。スライド映像を埋め込んだWebページを作成し、実際に学部用Webサーバにアップロードして情報発信する。学生による相互評価を行うことにより、今後の専門演習に対する意欲を向上させることを目指す。</p> <p>(12 皆川 武/6回) 学部内のLANやインターネット利用に関するマナーおよびルールの重要性を認識し、学内のネットワーク環境やサーバの利用方法などを理解する。また、タグを利用した基礎的なWebページの制作等を通して情報発信の仕組みなどを学ぶ。</p> <p>(17 馬場一幸/6回) 画像と音楽を組み合わせたスライド映像作品の作成を通して、さまざまなデータを統合してデジタル編集する基礎技法と、ファイルフォーマットの種類や解像度、データ量などコンテンツ制作に必要な基礎知識を身に付ける。</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部)</p>
<p>専門教育科目</p>	<p>学部基幹科目</p>	<p>造形入門</p>	<p>この演習では、デッサンや塑造彫刻を中心に行うことで、基本的な形の捉え方や空間認識力を養成し基礎的な造形表現を学習する。物体が持つムーブマンや量感を感じし確に理解するには、物体を客観的に観察する力が必要である。デッサンの演習では物体を観察することで得られるさまざまな視覚的情報を理解する技術を身に付ける。具体的には、光源を意識して影の濃淡を感じし観察することで、物体周囲の空間や面の重なりから物体の立体感を把握し、画面に描き起こす基盤となる力を修得する。また、塑造彫刻の演習では実際に粘土を扱いながら造形物を制作し、特に物体の量感を意識することにより立体造形の基礎力を修得する。</p>	
<p>専門教育科目</p>	<p>学部基幹科目</p>	<p>デザイン技法Ⅰ</p>	<p>この演習では、メディア表現の基礎となるグラフィックデザインによる表現の基本的な知識と表現技法を学ぶ。グラフィックデザインの表現において必須アプリケーションと言えるIllustratorとPhotoshopを授業では集中的に使用する。ドロー系の代表的なアプリケーションソフトであるIllustratorと、画像編集ソフトの代表的なアプリケーションソフトであるPhotoshopの基本的操作方法を、さまざまな演習を通して学習しながら、デジタルによるデザインの表現手法やデジタル画像編集の基礎知識、基礎技能を身に付け、様々なデザイン表現に応用できるような基礎力を養成する。演習課題はアプリケーションの操作手順について知るだけでなく、デザイン物を実際に制作することでグラフィックデザイン表現に対する理解や関心を高めることができる。</p>	
<p>専門教育科目</p>	<p>学部基幹科目</p>	<p>デザイン技法Ⅱ</p>	<p>この演習では、メディア表現の基礎となるグラフィックデザインによる表現の基本的な知識と表現技法を学ぶ。グラフィックデザインの基本的な表現要素である「形状」「色彩」「構成」についての理解を深めるため具体的な演習課題に取り組む。「形状」「色彩」「構成」のテーマを大きく3つのステップ「導入」「基礎」「応用」に分け学習を段階的に進め、グラフィックデザインの表現技法の基本を実体験することでさらに理解を深めることができる。各テーマの導入では表現のポイントやデザイン作品の鑑賞を講義形式で行い興味関心を持たせる。講義の内容を踏まえドリル形式の演習課題に取り組みテーマごとの基本的なデザイン技法を養成する。</p>	
<p>専門教育科目</p>	<p>学部基幹科目</p>	<p>メディア調査法Ⅰ</p>	<p>この演習では、社会科学における実証的研究の中でも重要な位置を占める社会調査法について概観し、その基礎的な知識を得て、実証的研究方法に関して理解することを目的とする。具体的には、社会調査の歴史と目的、社会調査の種類、調査結果の記述・表現方法、調査倫理、調査法全般の問題点等に関する社会調査の基礎を学んだ後、質問紙調査法、インタビュー法、観察法、フィールド調査、資料分析・内容分析等の社会調査法について実践しながら理解を深めていく。最終的には受講者が授業で学んだ調査法を用いた調査研究レポートを作成及びプレゼンテーションを行うことで、実際の調査スキルの基本を身につけることを目標とする。</p>	

専門教育科目	学部基幹科目	メディア調査法2	質問紙調査は、メディア業界をはじめさまざまな領域で広く用いられている調査手法であるが、正確な結果を得るためには、正しい手順を踏む必要がある。この授業では、質問紙調査において正確な結果を得るための基本的な手順と注意事項を学ぶ。具体的には、過去に行われた質問紙調査の問題点について検討した上で、自ら仮説を立て、調査設計を行う。また質問紙の作成から配布・回収、集計・分析に至るまでの一連のプロセスを実際に経験し、そこから得られた結果を検証する。これらを通して実践的な調査手法を習得するとともに、メディア上で流通する質問紙調査の結果を正しく読み解くリテラシーを身につけることを目標とする。	
専門教育科目	学部基幹科目	Web技法	この演習は、Webページの基礎となるHTMLやCSSの構造と仕組みを理解し、Webを利用した基礎的な表現技法と知識を身に付けることを目標とする。まずはWebページ制作の基礎知識として、Webサイトの特性や種類、ネットワークや代表的なWebサービスの仕組み、Webにおけるユーザビリティなどを学習する。その後、実際にパソコンを利用して、HTMLやCSSを記述しながら、文書要素の制御、文字の装飾やマージン領域の設定、レイアウトの基礎となる要素ボックスや包含ブロックの考え方など演習を通して身に付ける。また、画像編集ソフトを利用した簡易なWeb素材の作成方法を学び、画像等のデータフォーマットの特徴や変換方法を学習する。こうした実際の演習を通して、より高次で実践的なWeb制作に応用できる基礎力を養成する。	
専門教育科目	学部基幹科目	写真撮影技法	本演習では、デジタル一眼カメラでの写真撮影を題材として、写真独特表現を学ぶことを目的とする。まずカメラの基礎として焦点距離・ホワイトバランス・シャッタースピード・絞り値・撮影感度・ストロボのそれぞれの働きを理解する。次にじっくり被写体を見つめ、「硬い、柔らかい光質」「点、面光源」によるライティングの当て方を変えることで、被写体の表情がどのように変わっていくか、過程を撮影する。さらにデータ量・被写界深度・光と影・色空間・シャッターチャンス・多灯照明比・構図を学び、最終的にはオリジナルのポートレート作品を制作する。この演習を通じてスマートフォンのようなオート機能を使った撮影ではなく、「自分の感性」と「習得した知識」を、最大限に生かした撮影技法で制作できるようになるのが目標である。	
専門教育科目	学部基幹科目	編集技法Ⅰ	この演習では、DTP (Desk Top Publishing) の技法を学ぶ。DTPは紙の印刷物制作は勿論、現在、飛躍的に普及しているEPUB (電子書籍ファイルフォーマット) のデータ制作にも使われる技法である。また、DTPにおけるグリッドデザインの考え方は、Webデザインにおいても応用が効く汎用的な知識であり、デジタルデザインの分野全般において、極めて応用範囲が広い。具体的な学習目標としては、DTPに関する専門用語を理解し説明できること、DTPに適したデジタルデータを制作できること、DTP特有のデザインの基礎を習得し作品に反映させることを予定している。	
専門教育科目	学部基幹科目	編集技法Ⅱ	この演習では、エディトリアルデザイン、ブックデザイン、電子書籍制作について実際に出版物を制作しながら高度な知識と技能を深める。まず紙媒体としての出版物の制作に取り組み、エディトリアルデザインの表現技法の基礎と応用を確実に習得する。出版物の情報要素であるテキストや画像の構成をその出版物の情報伝達の目的を十分に考慮しながら表現できるデザイン力を実践的な演習課題を通して養成する。さらに制作した出版物を電子書籍化する知識と技能を学ぶ。また個人で出版物を制作し流通させる「ZINE」や「ひとり出版社」という取り組みに倣って、この演習で制作した出版物を実際に社会に送り出す取り組みも行う。	
専門教育科目	学部基幹科目	コンテンツ企画	情報やコンテンツが氾濫する時代、人の心をつかむアイデアを生み出すのは容易ではない。この演習では、課題解決のために、コンテンツ表現のために、クリエイティブなアイデアはどうやって生み出されているのか。その発想法を学び、自らの力として養っていく。情報を集め、咀嚼し、切り口を見つける過程を身につける。映画、小説、音楽、広告など、さまざまなメディアの作品も題材に、そのコアアイデアを探る。言葉、ビジュアル、音、ストーリーなどを使ってどうアイデアにするか。試行錯誤を体験しながら柔軟な発想力とオリジナルな表現力を磨くことを目指す。	

専門教育科目	学部基幹科目	メディア取材法	ある目的にそって人に話を聞き、記録し、考察する「取材」は、放送、新聞、雑誌、インターネット等媒体を問わず、多くの現場において基本かつ重要な手法であるが、有益な話を引き出し、それらをまとめることは極めて高度なスキルが求められる。この演習では、取材の仕方や方法論を具体的に理解し、取材をもとにした情報を活用する能力を養うことを目的とする。具体的には、資料を用いた事前調査の手法、質問項目の構成や展開に関する取材技法と当日の取材作法、さらに、文章化や映像化の過程における取材結果の分析とまとめ方について学ぶ。合わせて、実際に取材を行うことを想定した模擬演習を繰り返すことにより、責任のある情報発信者としての能力を身につける。	
専門教育科目	学部基幹科目	メディア文章表現	新聞・雑誌などのジャーナリズムの文章とはいかなるものなのか。この演習において学生は、客観的で分かりやすい文章で事実を淡々と積み重ねていくジャーナリズムのスタイルを学び、毎週書く練習をし、添削を受ける。学生自らが取材をし、記事を書いていく演習も行う。報道の文章は多くの人に事実を伝えることを目的としているため、日常生活や仕事で使う文章にも幅広く応用できる。例えば履歴書やエントリーシート、報告書、企画書など、その用途は幅広い。事実を正確に伝える文章を習得し、書き手・伝え手としての文章技術とその表現の向上を目指す。	
専門教育科目	学部基幹科目	デジタル・プレゼンテーションⅠ	この演習では、PC・プロジェクター・スクリーン等のデジタル機材を駆使して、プレゼンテーションする基礎理論と応用を学ぶ。自分の企画や意図を他者により良く正確に伝えるために、まずはプレゼンテーションとは何か、コミュニケーションとは何かという基礎理論を学び、次にビジュアルと言語の両輪で「より伝わる」ための構成・テーマ・シナリオの作り方を研究。また、そのデジタル資料の作成方法を、映像・デザイン・音声の分野を使いながら作成、実践する。“考える”“作る”“ライブで発表する”という三段階の演習を通して、理論と実践を行う。「他者に伝わる」プレゼンテーションの本質を真に理解し、そのスキルを向上させ、実践の応用力を磨くことを目指す。	
専門教育科目	学部基幹科目	デジタル・プレゼンテーションⅡ	この演習では、高度なプレゼンテーション技術の習得を目指す。プレゼンテーションは単に自分の考えを発表するだけではなく聴衆に理解してもらい、更に説得するという高度なコミュニケーションである。この高度なコミュニケーションを成功させるためにデジタル・デバイスやアプリケーションを効果的に活用する知識と技術を学習する。同時にプレゼンテーションにおいてプレゼンターの話し方や表情、ジェスチャーなどもプレゼンテーションを成功させる重要な要素であることを認識し、互いの表現が相乗効果をもたらす説得力のあるプレゼンテーションになることを実践的な演習を通して体験し習得することを目的としている。	
専門教育科目	学部基幹科目	メディア身体表現	この演習では、ナレーションや朗読の実践を通して、メディアにおける身体表現の基礎を習得する。演習の効果を高めるため、授業の前半に、全ての身体表現のベースとなるアクティングスキルを学ぶ機会を設ける。演技初心者・経験者の差なく、共に良い学びが出来るよう、発声と身体の基本訓練・シアターゲーム・即興エチュード等を取り入れ、受講者の進捗状況を見ながら丁寧に講義を進める。後半には、前半で学んだスキルをベースに「伝える・伝わる表現」についての考察を重ね、校内のスタジオやホール等を使いながら、個人及びグループでのナレーションや朗読実践の場を設ける。受講者のアウトプットについては、毎回個人または各グループにフィードバックを必ず行う。参加型・双方向型、ディスカッション多用の授業である。	
専門教育科目	学部基幹科目	メディア統計分析	この演習では、メディア調査の分析において必須となる統計の基礎知識とスキルを学ぶ。調査によって得られたデータの取り扱い方、そのデータに基づく基本統計量、度数分布、相関係数、検定、推定などの基本的な考え方と分析方法、分析結果の解釈の仕方について学習する。分析にあたっては、統計ソフトを用いて毎回の授業で分析課題に取り組む。取得したデータについて、主観的な判断に頼るのではなく、統計的な分析を行うことにより客観的に判断できる知識とスキルを習得することを目的とする。	

専門教育科目	展開科目	メディア思想史	この講義では、近代日本150年の歴史の中におけるメディア思想を取り上げる。メディア思想史を、主に戦前、戦後、00年代に区分し、「自由と統制」を軸に展開された多様な思想を紹介していく。歴史を動かすのも思想を担うのも人間であることから、メディア創始者・創業者、ジャーナリスト、編集者、プロデューサーなどの人物誌を、内在的に取り上げることとしたい。またメディアによって伝えられる「メッセージ内容」のみならず、メディア研究者・M. マクルーハンも言うように、「メディアもメッセージである」ことから、マスメディアのみならず、ミニコミ、パーソナルメディア、デジタル・メディアといった諸メディアを、その形式に宿る思想も取り上げる。そして、海外メディアの思想も比較の観点から適宜、検討する。	
専門教育科目	展開科目	放送論	この講義では、メディアを取り巻く環境の変化を踏まえて、放送という媒体の特徴をつかみ、現代日本における放送の役割について理解を深めることを目的とする。具体的には、実際の映像素材を用いて、放送のメディア特性と社会的影響力について考察した後、ラジオからテレビ、インターネットとの競合・融合へと至る放送メディアの歴史的経緯について検討する。その上で、現在の放送制度の仕組み、視聴率の仕組みを踏まえた広告媒体としての放送の現状、公共放送の果たす役割、地域・市民メディアの観点から見た放送の意義、災害・防災情報の主体としての放送の役割等を取り上げながら、今後の放送のあり方について考察を深める。	
専門教育科目	展開科目	ジャーナリズム論	ジャーナリズムは現在、インターネットやソーシャルメディアの出現によって大きく変わりつつあるが、その基本は変わらないだろう。つまり、ジャーナリズムとは世界で何が起きているかを知ること、換言するならジャーナリズムの使命は「ニュース」を伝えることである。とはいえ、どうしてあることは「ニュース」であり、他のことは「ニュース」ではないのか。事件だけが「ニュース」だとは限らない。この講義では、まず「ニュース」とは何かということを考えていき、ジャーナリズムの歴史と役割を検証していく。同時に授業では新聞を読み、時事問題を討議し、学生が新聞や時事問題に関心を抱くように指導する。そのことによって徐々に社会に向かって目を開き、メディアリテラシーを身に付けていくことを目標とする。	
専門教育科目	展開科目	インターネット・コミュニケーション論	この講義では、今日私たちの生活に欠かせなくなったインターネットを介したコミュニケーションに関して理論的・実証的理解を深めることを目的とする。1990年代にインターネットの商業利用が開始されてから、検索サイトの登場、動画共有サイトの普及、ソーシャルメディアの登場等により、ネット上で多様なコミュニケーションが展開されている。そこで、メディア・コミュニケーションと社会との関係性を理論的にとらえた上で、インターネット社会の形成過程、ソーシャルメディア社会におけるコミュニケーションの特徴、インターネット時代のジャーナリズム、ネット上で展開されるビジネスの変化、インターネットが地域にもたらした影響などについて、実際の事例を取り上げながら、多面的に考察を進めていく。	
専門教育科目	展開科目	グローバルジャーナリズム論	国際報道というと、日本の特派員が海外から送ってくる一連の報道のことだと思われがちだが、外国人記者が日本について報じていることも重要な国際報道である。海外メディアの東京特派員が書く記事が、世界における日本のイメージを形成するからである。また、グローバルネットワークを持っている国際報道機関もあり、例えばロイター通信社がその典型で、世界の報道・金融機関に情報を提供している。そこで本講義ではグローバルジャーナリズムを多角的に捉え、「国際ニュース」報道を毎週検討していく。具体的には毎週あるニュースを選び、日本の報道とアメリカなどの欧米のメディアの報道の違いを検証していく。そのことによって国際報道に関するリテラシーを涵養し、世界の様々な出来事を多角的に考察し、世界に対して広い関心を持ち続けるようにする。	
専門教育科目	展開科目	地域メディア論	この講義では、地域におけるメディアに関して理論的・実証的理解を深めることを目的とする。今日、社会、経済、生活全てのグローバル化が急速に進行しつつある中で、「地域」の重要性が見直されている。多くの地域課題が生じている中で、地域活性化を図るための一つのツールとしてメディアの果たす役割は大きい。そこで、本授業では、地域とは何か、地域メディアとは何かという基本的な問いから出発し、前半では、地域紙やCATVなどの伝統的な地域メディアの変容及びどのように地域の中に位置づけられているか検討し、地域メディアに関する理解を総合的に深める。後半では、近年のメディアの変容を踏まえて、具体的な地域課題とメディアの関わりについて検討を行い、地域におけるメディアの存在意義について考察を深める。	

専門教育科目	展開科目	メディア・リテラシー演習	この演習では、メディアの可能性を探求しながら、普段何気なく接しているメディアを社会の中で活用するための実践的なアイデアを生み出すことを目的とする。まずはメディア利用の歴史を整理しながら、現在の利用法とは異なる可能的様態、すなわち「あり得たかも知れない活用方法」について学ぶ。さらに、教育現場におけるメディア活用事例や市民によるメディア実践などの事例を学んだ上で、受講者同士で新しいメディア活用のアイデアを出し合い、議論を深める。これらを通して、現代社会におけるメディアの新たな可能性について考えていく。	
専門教育科目	展開科目	メディア文化論	この講義では、メディア文化をめぐるさまざまな議論を採り上げながら、学問的な視点でそれらの分析を試みる。具体的には、都市、大衆文化、テクノロジーなどのキーワードを軸に、社会学、メディア論、表象文化論、カルチュラルスタディーズなどの諸理論を整理しながら、これらの対象がどのように研究されてきたかを論じる。また現代のメディア文化のありようとその社会的背景について、上記の理論を踏まえながら検討する。これらを通して、メディア学を学ぶ上で必須となる、身近なメディア文化を学問的な探求の対象として捉えるための素養を身につけることが、本講義の目標である。	
専門教育科目	展開科目	音楽文化論	ポピュラー音楽はメディア技術の存在を前提として成立・拡大してきた文化であり、ポピュラー音楽の変化とメディア技術の変化は不可分の関係にある。またポピュラー音楽は、その国や時代の政治的・経済的背景が色濃く反映されたコンテンツでもある。こうした観点に立ち、この講義では、欧米および日本におけるポピュラー音楽の歴史と現状について整理・検討を行う。メディア技術のありようや人種・世代・階級間の対立など、ポピュラー音楽に埋め込まれた社会背景を読み解きながら、ポピュラー音楽を単なる娯楽コンテンツとしてではなく、学問的探求の対象として捉える視座を身につけることが、この講義の目標である。	
専門教育科目	展開科目	サブカルチャー論	この講義では、音楽・アニメ・マンガ・Webなどのサブカルチャーコンテンツを題材に、コンテンツとそれをめぐる理論を往復しながら、社会の様態を分析・考察することに主眼を置く。そのために、サブカルチャーに関する実証研究を具体的に紹介しながら、これらの研究がどのような事象に対して、どのような問いを立て、どのように分析・考察を行い、そこからどのような知見を導き出したか、その方法論を検討する。こうした作業を通して、身近なコンテンツから問いを見出し、それを学術論文へと結実させるまでのプロセスを学ぶことが、この授業の目的である。	
専門教育科目	展開科目	多文化共生論	文化的背景の異なる人々が共に理解し共存するためには、どのような視点が必要なのか。この講義では、複数の文化がせめぎ合う多文化社会のありようについて論じながら、その歴史と現状を理解し、問題を解決するための方策について議論する。具体的には複数の社会問題について、地域、ジェンダー、メディアなどの観点から検討し、「何が、いかにして問題とされてきたのか」について社会的に明らかにする。こうした議論を通して、自身が生きる多文化社会のありようを理解すると同時に、その社会に埋め込まれたさまざまな問題を発見し、自ら多文化共生のためにできることを模索し得るような視点を身につけることが、本講義の目標である。	
専門教育科目	展開科目	教育とメディア	この講義では、さまざまなメディアが初中等教育を中心とした教育現場で活用されている現状と効果、影響などについて、具体的な事例ビデオや写真などで捉えるとともに、実教材を体験することや制作することを通して理解を深める。具体的には、OHC（書画カメラ）やIWB（電子黒板）による教材提示、インターネットとタブレットを活用した協働学習やアクティブラーニングの体験、ARやVR技術を用いた教材体験、個人のデバイスを利用した自宅学習や個別学習（BYOD）などの事例を通して教育の情報化の一部を把握する。一方、文科省や内閣府などの調査結果をもとに現状での児童生徒への影響などに関して概要を把握し、ICT機器導入と児童生徒の学力との関連などの将来展望について考える。	
専門教育科目	展開科目	エデュテイメントシステム制作演習	一人1台の端末を利用する教育環境を想定し、幼小中学生が興味深く学習できるエンターテイメント性の高い教育システムの研究と開発に必要な技能を身につける。演習では、簡単なアニメーション（ストップモーションアニメ）やゲーム性、インタラクティブ性のある教材コンテンツなどの制作を通して、子供たちの興味・関心を持続させるための方法、それを実現するためのコンテンツデザイン、制作に必要な技法などの基礎を身につける。身近なアプリケーションソフトウェアを利用し、協働作業や相互評価の手法を使って完成度を高める方法などを身につけ、実用的なコンテンツ開発を進める。	

専門教育科目	展開科目	出版メディア論	日本の出版界は低迷しているが、その要因はインターネットの普及や若者の活字離れだけではない。日本では年間8万点以上が出版され、本が洪水状態にあることとも密接に関係している。また、これまでの紙媒体や既存のメディア以外にも多数の新しいメディアが登場したことも背景にある。そこで本授業では、出版界の現状とあわせて、フリーペーパーやウェブマガジンなどの新しい出版メディアを検証しつつ、書籍や雑誌のエディトリアル・デザインや、編集の仕事そのものについての理解の向上も目指す。授業内で学生自らが雑誌を分析し、企画を立案、自分の制作してみたいフリーペーパーを提案し、発表する。そのことを通して企画力やプレゼンテーション力を養っていく。	
専門教育科目	展開科目	コミックス文化論	日本の出版文化を考える際、コミックスは大きな位置を占めている。それは国内だけではなく、海外においても日本のコミックスの人気は高く、「Cool Japan」として高く評価されている。そこで本講義では日本におけるコミックスの発展の歴史、殊に戦後からの展開に注目し、「少年マガジン」や「少年サンデー」などの漫画週刊誌の登場がいかに出版界に変化をもたらしたか、そして日本のジャーナリズムがいかにそれを伝えてきたかを検討する。加えて、コミックスの背後にある作家の世界観や、作家が受けた影響についても学ぶ。特に取り上げるのは、日本における「漫画の神様」とも呼ばれる手塚治虫、そして彼の影響を受けた60年代の漫画家たちである。いわばどのようにして漫画が日本の文化となり、海外でもヒットするようになったのかを理解する。また、過去の作品を習うだけではなく、ストーリーや主人公や時代的背景を分析し、授業で発表する。そうすることによって、将来のコンテンツビジネスの制作やプロデュースに役立つヒントや示唆を得ていく。	
専門教育科目	展開科目	電子出版論	この講義では、電子出版・電子書籍・電子図書館をデジタルコミュニケーションメディアの中でとらえ直し、理解を深めていく。出版は、個人・組織が思想や感情を表現し、言論表現を行うメディアであり、最も古いメディア産業である。このことを確認した上で、電子出版を事例に、デジタル技術とインターネットの急速な発達によって、情報収集と発信の仕方が大きく変わろうとしている現状を理解する。 ・電子書籍を中心とした現在の出版産業を例に、ビジネス変革とコンテンツの有り様について理解する。 ・電子出版、オンライン書店、電子図書館など、情報流通の変革を通して、情報化社会におけるビジネスモデルについて理解する。 ・電子書籍、電子雑誌、電子コミックなどを通して、新たなコンテンツ表現を身につける。 ・電子書籍の制作実習を行い、作品を公表することで、電子出版を体験する。	
専門教育科目	展開科目	メディア社会・文化特講	この講義では、現代的なメディアを用いてさまざまな表現・言論活動を行っているジャーナリストや文化人、研究者などの事例を紹介しながら、メディアと社会・文化の現代的な結びつきについて考える。WebやSNSに代表される新しいメディアを使って行われるこうした表現・言論活動は、扱う領域も社会問題からサブカルチャーまで幅広く、またこのような活動をビジネスとして成立させるための仕組みも、さまざまな形で実現しつつある。こうした状況を踏まえ、この授業ではメディア表現の最前線で起きている変化について、第一線で活躍するゲストスピーカーの話なども交えながら検討していく。これらを通して、多様なメディアが存在する時代の表現や言論について新たな視点を身につけることを、本講義の目標とする。	
専門教育科目	展開科目	メディアとビジネス	この講義では、メディアおよびそれを取り巻く環境をビジネスの視点から捉える上で基礎となる知識や理論、実践方法について学ぶ。今日ではいかなる事業においても経済性とのバランスが求められており、メディア領域においても例外ではない。その観点から新たな産業的価値の創造に関する理論やその実践方法に注目が集まっている。講義ではメディア領域に大きな影響を与えるIT分野に関する先端の議論、ならびにアイデアや創造性を利潤に転化する仕組みの基礎概念を学ぶことでビジネス創造理論や実践方法への理解を深めながら、時代の要請にあった価値創造について考える。こうした作業を通じて、新たなビジネス創造の必要性和意義を理解するとともに、目下の経済状況を適切に理解しマッピングするための能力を習得することを目指す。	

専門教育科目	展開科目	イベント概論	この講義では、Tokyo 2020に向けてますます注目を集めるリアルメディア「イベント」について様々な視点から考察する。“イベントの時代”と言われて久しい現代において、イベントの基礎と基本である、定義、形態、意義、機能、役割等について説明する。その上で、イベントが持つ社会や地域や産業における存在について検証する。続いてイベントの持つ非日常性、驚きと感動、感性価値、体験価値等にスポットライトを当てながら、時代が求める新たなイベントを創造するためにどうすればよいか、イベントイノベーションによるアイデア創造へと講義を進める。	
専門教育科目	展開科目	イベントプロデュース論	「プロデュース」とは、思い付いたSEED（種）を具体的に世に出し、社会化するまでの一連の行為であり、これから実社会で活躍するリーダー人材を育てる上での重要なキーワードである。特にイベントでは、臨時に組織を組んで行われる特別な行事・催事が多いことから、イベントプロデューサーには様々な資質と能力が要求され、多様な機能と役割が求められる。この講義では、これまで暗黙知として取り扱われてきたプロデュース行為を、プロセスや要素を分解し再現可能なテクノロジーとして形式知化、新たな人材育成プログラムとして適応させる。	
専門教育科目	展開科目	イベント制作・運営演習	イベント学は、現実的な学問である。企画がいくら面白くとも実現しなければ意味がない。イベントには大きな夢を描くことも欠かせないが、いざ実現するとなるとなかなか難しい。理想と現実とのギャップがあり、理路整然と描かれた企画が、現実社会の中ではうまくできないことのほうが多いと言える。“不可能”を“可能”とするための、イベントの制作・運営について演習を行う。テーマは、大会場を満席にする制作法、無事故を成し遂げる安全な運営法等、プロのイベント制作・運営の主なポイントを、再現可能なテクニックとして提供する。	
専門教育科目	展開科目	広告論	メディアの急速な変化によって現代の広告はさまざまなカタチをとっている。テクノロジーの進化によって新たな手法も次々と生まれている。広告の姿や範囲が捉えにくくなっている時代だからこそ、広告とは何か？という原点に立ち返って考えたい。企業活動の一部というビジネス的側面と、メッセージをより広く伝えるというコミュニケーション的側面。この2つを柱に、広告の社会的ミッションを学んでいく。この講義では、マーケティング、ブランド、メディア、広告表現、これら各分野の基礎的知識を身につけながら、広告が世に出るまでのプロセスの理解を目指す。	
専門教育科目	展開科目	広告表現論	生活者の身の周りにあふれ、実際に目や耳にふれる広告表現。そのカタチは時代や社会の変化とともに変わってきた。現代では、メディアの多様化によって新たなスタイルも生まれてきている。しかし、生活者にメッセージを届け、響かせ、態度変容を促すという広告表現のミッションは変わらない。優れた広告作品では、言葉、ビジュアル、ストーリーなどの要素がどう使われているのか。この講義では、すべての基本となる広告コピーの発想法を事例を通して学びながら、広告クリエイティブの企画の基本をつかむ。広告表現の特性への理解と表現力の基礎づくりを目指す。	
専門教育科目	展開科目	広告プランニング論	企業ブランド、商品ブランド—その価値を高めるために、あるいは守るために、企業は戦略を立て、広告コミュニケーションを展開している。「ブランド」とは何か。この講義では、その本質の理解を出発点に、広告戦略の基本形を事例から学ぶ。また、われわれが日々接している広告は、どんな戦略をもとにつくられているのか。広告表現の裏側にある考えを、業界別に探り、各社のプランニングを読み解いていく。ブランドは、市場の変化の中で絶えず課題に直面する。その解決のために戦略が立てられ、表現が生み出される。この基本的な流れをリアルにつかむ目と感覚を養う。	
専門教育科目	展開科目	広告制作演習	この演習では、広告表現をコピーから考える。あらゆるメディアで無数の言葉が行き交ういまの社会で、効くコピー、響くコピーとはどういうものか。多くの優れた事例を見ながら、視点の持ち方や言葉のチョイスの仕方を知る。毎回設けるさまざまなテーマの課題に対して自分でコピーを書くことで発想や表現を磨いていく。後半は、コピーをもとに、グラフィック広告やTVCの企画など、より実践的に広告表現を生み出すプロセスを学ぶ。発表や作品へのフィードバックを通じて一人ひとりと密なコミュニケーションをとり、広告をカタチにする厳しさと醍醐味を体感できる演習とする。	

専門教育科目	展開科目	広報・PR論	広報・PRは、企業・官公庁・団体などあらゆる組織にとって欠かせないコミュニケーション活動である。近年はインターネットの普及により、コミュニケーションが多様化し、広報・PRにおいても新しい潮流が生まれている。この講義では、広報・PRやその変化を勉強し、社会の動きに関心を持つことで学生達の視野を広げ、実社会で必要としているコミュニケーションの知識・能力を取得させることを目的とする。理論的な授業だけでなく、広報・PRの実際の事例を紹介し、学生達に広報・PRの知識や具体的な活動への理解を深めさせる。	
専門教育科目	展開科目	社会デザイン論	この講義では、社会やビジネスを変革していく意義と方法を学ぶ。「未来を予測する最善の方法は、自らそれを創り出すことである」と言われている。将来の予測が困難な時代にあつて、目指すべき社会像を描く知的な構想力が求められているという認識に立って、これからの社会やビジネスを如何にデザインしていくかを考えていく。現代社会の見方、問題解決、イノベーション、デザイン思考などを手がかりに、独自に考案した柔軟な発想を促進するワークショップなども織り込みながら、未来志向のマインドとスキルを身につけていくことが狙いである。	
専門教育科目	展開科目	エンターテインメント論	この講義では、エンターテインメントがどのように企画され、さまざまな形をとって視聴者の元に届けられるのかそのあらましを学ぶ。エンターテインメント産業では、コンテンツがマンガから、アニメ、ドラマ、映画、そしてゲームなど表現を豊かにしながら、市場・視聴者へと届けられている様を跡づける。産業としての構造や歴史経緯を押さえると同時に、製作にもっとも時間と手間がかかるがゆえに、製作費の回収にもまた時間と手間がかかる映画について、毎週、興業市場の動向を検討する。これらの知識・考察を踏まえ、現在の視聴者の嗜好をとらえた、エンターテインメントの企画とはどのようなものなのかまとめる。	
専門教育科目	展開科目	アニメーション制作演習Ⅰ	この演習では、3DCGによる表現手法を学習する。まずは、基礎編として、アニメーションのモーショントークン技術全般を身につけるために、毎回ひとつずつ、特徴的なアニメーションの要素技術を活用した映像を制作することを積み重ねる。たとえば、等速度の直線運動、回転、ため、残し、スクイーズ&ストレッチなどである。要素技術のひとつ通り習得した後は、応用編として、人間の素体モデルにこれらのモーショントークン技術を当てはめ、歩き、走りなどの基礎的動作をできるように訓練した上で、感情や意図を組み入れた演技ができるようになることを目指す。これによって、3DCGソフトの扱いに習熟すること、特に「動かし方」について理解することを狙いとする。	
専門教育科目	展開科目	アニメーション制作演習Ⅱ	この演習では、3DCGによる表現手法を別の角度から学習する。まずは基礎編として、モデリング技術全般を身につけるために、毎回ひとつずつ、特徴的なモデリングの要素技術を活用した画像を制作することを積み重ねる。例えば、ポリゴン体、回転体、掃引体、ブリーアンなどである。要素技術を一通り習得した後は、応用編として、キャラクターを作成する。規定の技術を用いたキャラクターを作成した上で、各自のオリジナルデザインによるキャラクターを作成し、それにさまざまな演技をさせることを目指す。これによって、3DCGソフトの扱いに習熟すること、特に「モデリング」について理解することを狙いとする。	
専門教育科目	展開科目	アニメーション制作演習Ⅲ	この演習では、映画の予告編ムービーの作成を行う。エンターテインメントや通俗性とは何かについての議論を通じて考察を深めた上で、ウラジミール・プロップの『昔話の形態学』などで説かれる物語の構造分析について学ぶ。個々が企画したエンターテインメント映画の企画を、シド・フィールドが提唱する三幕構成理論に基づき物語化した後、その内容紹介と宣伝効果の両方を考えた予告編を動画コンテ形式で作成する。相互レビューにより、いくつかの企画にチーム分けして3DCG技術を活用したプリビズ形式でのムービーを作成する。作業を通じて、企画立案から制作、宣伝まで一貫したアニメーション制作を体得することを狙いとする。	
専門教育科目	展開科目	サウンド分析演習	この演習では、私たちを取り巻く環境としての音のあり方、暮らしに息づく音の文化、デザインのフィールドとしての音の風景の分析についての知見を深めることを目的とする。具体的には、サウンド分析(サウンドスケープ)の基礎を学び「音・聴覚」を切り口に地域やメディアを読み解いていく。地域や社会、メディアの中に息づく「音の文化」「聴覚的な意味」を種々の事例やメディア作品等を紐解きながら考察する。講義形式で学ぶ中に実際にフィールドに出て音を体験する時間、作品を音から分析する時間などの演習・実習的要素を織り込んでいく。サウンドスケープという考え方が、「環境」「教育」「まちづくり」「建築」「デザイン」「メディア」「アート」など現代社会の広範な領域と関わりのつなぐ新たな地平を切り開いていることを学ぶ。	

専門教育科目	展開科目	サウンド制作演習	この演習では、TV・アニメ・ゲームなどのさまざまなメディアで使われる音楽や効果音の作成方法を学ぶ。講義で得た知識や計画に基づいて、演習ではパソコンベースにおける打ち込み〜レコーディングなど、一連の音源制作を行い、さらに一歩進んだ音の概念や専門技術の基礎を学ぶ。この演習を通して、現場におけるサウンドセクションの作業プロセスや制作スケジュールを理解し、専門技術のみならず、作品制作全体におけるサウンドセクションの役割を客観的に把握することを目指す。	
専門教育科目	展開科目	イベント・広告プランニング特講	イベントは“驚きと感動”を生む。その企画の段階では、創造性が大切である。社会や人々へインパクトを与えるサプライズアイデア、マンネリを打破する発想が求められる。またアイデアはそのままでは企画にならない。創造性に加えて、論理性・実現性も問われる。この講義では、イベント企画のベースフォーマットを活用し、基本的な企画書作成の基礎を学ぶ。具体的には、様々なジャンルで行われているユニークなイベントを探り上げ、その企画コンセプトについて、ゲスト講師の話も交えながら検討を行う。これらを通じて自身の企画力を高め、イベント企画制作に活かせるようにすることを本講義の目標とする。	
専門教育科目	展開科目	エンターテインメント・プロデュース特講	日本を代表するポップカルチャーとなったアニメ。この講義では、日本を代表するポップカルチャーのひとつであり、産業的にも存在感を持つようになったアニメの概観を文化的・産業的に把握することを目標とする。アニメの文化的・経済的・メディア的な現状や歴史、産業構造などの把握、企業論といった事項が講義内容の中心となるが、同時にそこから派生する様々な事象、アニメによる街おこし、海外でのアニメの受容、特にASEANを中心とするアジアとの連携など時機を得たトピックにも触れながら授業を進める。	
専門教育科目	展開科目	デザイン論	この講義では、「デザインとは何か」について学ぶ。社会におけるデザインの役割や意義をさまざまなデザイン領域がどのように確立されてきたのかを産業の発展や世界情勢などの背景とともに学び近代史におけるデザインの発生について学ぶ。さらに現代社会でどのようにデザインが機能しているのかを学び、論理的にデザインについて理解することを目的とする。またこれからの多様化・複雑化する社会において様々な事象に関心を持ち、課題や問題を探求し、それらを積極的にデザインの力で解決していけるような思考を学び、社会貢献できるようなアプローチを実践する思考を養成する。	
専門教育科目	展開科目	デジタル・アーカイブ論	この講義では、情報メディアの新たな社会的役割を担う分野として、デジタル・アーカイブを考察する。日々拡張を続ける様々なデジタル・アーカイブを多角的に概観しながら、主軸を文化財デジタル・アーカイブに置き、文化的資源をデジタルで記録・保存・運用・公開する手法や技術的プロセスを実践的に学ぶとともに、その社会的意義や課題について考察する。さらには、M(Museum)・L(Library)・A(Archives)連携を視野に、新しい技術動向や知的財産権、ライセンスなど、求められる情報マネジメントの基礎的知識の習得を目指す。	
専門教育科目	展開科目	メディアアート	この講義では、大学でメディアアートについて学ぶ上で基礎となる理論と歴史を学ぶ。メディアアートを学問の対象としてとらえる視座を身につけるために、まずは学問の世界においてメディアアートはどのように考えられてきたか、その理論的変遷について学ぶ。また、メディアの歴史や具体的な使用法、それらをめぐって巻き起こったさまざまな議論を検討しながら、この社会でメディアアートはどのような役割を担ってきたかを考える。こうした作業を通して、これから大学でメディアアートを学問的に研究する意義を理解することを目指す。	
専門教育科目	展開科目	メディア情報論	現代社会におけるメディアと情報技術の関連性や人の感性とインタフェースの関連性、社会インフラとして発達をつづけるネットワーク技術について、現代社会の背景にある情報理論や技術に関して解説をおこない、現代のメディアと情報技術、ネットワークの関連性やその機能について学習する。 メディア情報に関わる諸理論（情報理論やアルゴリズム論、UXデザイン論等）を取り上げて、メディアと情報に関わるプログラム、ネットワーク、インタフェース、AI、画像処理などの諸理論について応用事例を踏まえて解説する。	

専門教育科目	展開科目	映像表現論	現代社会では多様な映像表現が行われている。さらに映像を表現し、公開することはプロだけではなく個人でも行う時代になった。本講義では、表現に関する学問的背景を踏まえ、映像表現が現代社会においてどのような影響を与えているのかを理解し、さらには映像を表現する際の基本的な考えや姿勢を学習する。まず映像表現の歴史的な背景について学び、映像表現技術が発展していく中で社会や人間生活にどのような変化や影響を与えてきたかを理解する。さらに、テレビ番組、映画、インターネット動画などの現代における多様な映像表現のそれぞれ特徴を理解し、それぞれのメディアの利点や課題を学ぶ。これらを踏まえ「ドキュメンタリー」「報道」「ドラマ」「エンターテインメント」などの具体的なジャンルを対象にして、これらの映像表現の今後の可能性を考察する。	
専門教育科目	展開科目	映画論	この講義では、わが国ならびに諸外国における古今の映画作品を渉猟しながら、映画表現を成立せしめる基本的な概念、映画について語りあうための用語と定義、すなわち映画言語を獲得し、映画のつくり手の発想や情熱への洞察力や共感力を養う。映画の演出、撮影、編集などの技術はどのような表現効果やメッセージに結びついて作品世界を支えているのか、そこでバックボーンとなっている各国・地域の文化的特色や地政学的背景はどのように立ち現われてくるのか、映画の芸術性や、そこに示される人間観、人生観は人々にどう働きかけるのか、そして映画の未来はどこへ向かうのかなど、映画について多面的に論じる。	
専門教育科目	展開科目	映像制作演習Ⅰ	この演習では、映像制作の入門として、映像編集による表現技術やその効果を学習する。パソコンをプラットフォームにした高機能なノンリニア編集ソフト「Adobe PremierePro」などを利用し、演習を通してさまざまなノンリニア編集の技法や知識を学習する。最終的には1つのテーマに沿って、伝えたいメッセージを考え、それを伝えるためのショートムービーを企画・撮影し、30秒程度の映像作品を制作する。制作した作品は、授業内で上映し、他の受講生や教員からの評価機会を得る。	
専門教育科目	展開科目	映像制作演習Ⅱ	ビデオカメラや高性能コンピュータの普及により、さまざまなメディア表現において映像が使われるようになった。この演習では、映像制作の企画・撮影・編集までの一連の作業の基本知識を実践的に習得することを目的とする。半期の授業を前半・中盤・後半に分ける。前半では、ビデオカメラの使い方や機能を学び、カメラワークや画角などの撮影の基礎を習得する。中盤ではドキュメンタリー番組の番組構成を分析し、自らも受講生を紹介する他己紹介ドキュメンタリーを制作する。最終的には学外の個人・組織の取り組みや魅力、地域の文化や歴史の紹介などをテーマとしたドキュメンタリーを制作する。制作した作品は授業内で上映し、他の受講生や教員からの評価機会を得る。	
専門教育科目	展開科目	映像制作演習Ⅲ	テレビやインターネット向け放送ではスタジオを使った映像収録が多く行われている。この演習では、スタジオでの映像制作の基本知識と技術を習得することを目標とする。1カメラ収録の映像に加え、マルチカメラでの生収録演習によって、「多視点によるリアルタイム映像の持つ同時性」や「人の視点を考慮した違和感なく画角を切り替える映像文法」など本来のメディア特質を学ぶ。さらに作品制作の中で、スタジオ収録における役割分担やワークフローを習得する。	
専門教育科目	展開科目	映像制作応用演習	この演習では、これまでに映像制作を学んだ学生がテーマに縛られず、自由に映像作品を企画し、実際に制作・公開することを目標とする。具体的には、ドラマ・情報番組・ドキュメンタリー・バラエティなどの中から制作する作品を1つ選択し、そのリサーチから、企画、撮影、編集までを行う。一連の演習の中でこれ以前に学んだ知識や技術の定着をはかり、さらにそれらを実践的に扱うための応用的な知識や技術を習得する。制作した作品はコンテストやケーブルテレビ、インターネット動画などで配信し、対外的な評価機会を得る。	
専門教育科目	展開科目	ライブ番組制作演習	この演習では、ラジオの役割や特性について理解するとともに、ラジオ番組制作の基礎を習得する。放送メディアの基本的な枠組みを作り上げたラジオは、現在も地域の重要な情報メディアとして利用されている。この授業では、こうしたラジオの意義や重要性を踏まえつつ、ラジオ番組の編成や制作過程について学ぶ。さらに、ラジオ番組の企画・構成・制作について実際に演習形式で学んでいく。これら実践を通して、生活に密着したメディアとしてのラジオを理解し、活用する能力を身につけることを目標とする。	

専門教育科目	展開科目	シナリオ論	ドラマに限らずドキュメンタリーや報道、教育番組まで、伝えたいテーマや内容を、時間軸に沿って論理的に、かつ情緒の抑揚も加味しながら展開し、理解や感動を呼び起こす技術がシナリオライティングである。この講義では、単なるシナリオフォーマットの習得に終始することなく、自らの”おもい”を作品(番組)として客観視しながら、正しい言葉を駆使して表現する力の育成をまず基本とし、制作の設計図となるシナリオの具体的な役割を理解する。次に物語の創造とは、現実を吟味し、目指すべき世界への展望を示そうとする極めて社会的で人間的な働きであるとの意識と意図のもと、創作の領域へと歩を進める。	
専門教育科目	展開科目	ショートフィルム論	この講義では、映像表現に関する学びの成果を、ショートフィルムという具体的なコンテンツに結実させる。具体的には、企画とテーマ設定、シナリオと絵コンテ、テストなどのプレプロダクション、撮影(プロダクション)、そして編集や音の仕上げなどのポストプロダクションまで、一連の映画製作におけるプロセスを学修する。最終的には、ひとつのプロジェクトを立ち上げ、期限までに完遂するというグループワークを行う。この学びは創作の歓びや達成感を体得できるとともに、総合的な表現力や伝達力、計画性やチームワークなど、生涯にわたって求められる「仕事力」を涵養する機会となるものでもある。	
専門教育科目	展開科目	映像制作技術論	現在われわれが目にする映像装置や表現技法は、先人たちが当時の新技術の有効活用を模索した結果である。そこで、本授業では、映像制作技術の変遷を学修した上で、今後、映像制作技術がどのように変化し、社会にどのような影響を及ぼすかを考察する。具体的には、光学・写真技術の原理と構造、ステレオスコープによる映像の立体化の原理、写真フィルムのデジタル化における電磁気的映像技術や映像信号(アナログとデジタル)、超高精細映像、VR映像などの内容を取り上げる。講義においては、受講者の理解を深めるため、簡単な映像装置の製作やグループでのディスカッションも行うことを予定している。	
専門教育科目	展開科目	インタフェース論	インタフェースとは何かについて学習する。まず、人間と道具の関係、道具(モノ)を使う人間の思考、人間がモノを使う際のヒューマンエラー等、人間とモノのインタフェースについて、その理論を学習する。その上で、人間とモノだけでなく、それらを取り巻く環境まで含めた嬉しさを生み出すインタフェースとして「人間中心設計」について、その概念、ユーザビリティ(使い易さ)、ユーザエクスペリエンス(人間とモノの関係の全ての側面)について、その理論を学習する。人間とコンピュータの主要なインタフェースであるグラフィカルユーザインタフェース、音声認識・音声合成等の様々なインタフェースについて学習し、ユニバーサルデザインについても理解する。更に、モバイルウェアラブルデバイス、IoT、AR/VR、ロボット等の新しいインタフェースについても理解を深める。	
専門教育科目	展開科目	プログラミング基礎	この演習では、オブジェクト指向プログラミング言語の一つであるJava言語をもとに、開発環境の利用、ファイルシステムの概念と操作コマンド、構造化プログラミングの概念とオブジェクト指向プログラミングの基礎について実践的に学び、情報処理の素養を習得することを目的とする。Java言語を利用したプログラム作成を通じて、コンピュータプログラミングの基礎とアルゴリズムに関して学習を進める。具体的には、ファイルシステムの基本概念、構造化プログラミングの基本構造(順次・選択・繰り返し)に関して学習し、簡単なアルゴリズムを考えてプログラムとして記述することで、データ構造(整数型、実数型、配列)、オブジェクト指向プログラミングについて体験的に学習する。	
専門教育科目	展開科目	Webシステム	この演習では、インタラクティブなWebページの仕組みを学び、サーバー・クライアントシステムの仕組みやWebサーバ、Webブラウザ双方で動作するプログラムの概念を理解することを目的とする。サーバーサイドプログラミング(PHP)、データベース(MySQL)、クライアントサイトプログラミング(Javascript)を利用したWebシステムの構築方法を学習し、グループワークで仮想のショッピングサイトのシステム開発を進めながら学習を行う。	
専門教育科目	展開科目	情報ネットワーク論	この演習では、高度情報化社会において必要不可欠な知識であるコンピュータネットワークの基本的な仕組みや知識に関して学習し、情報処理技術者としての素養を習得する。また、その正しい活用方法に関して学習することを目的とする。インターネットを中心としてその歴史、ネットワークアーキテクチャとその構成要素、データ通信方式(IP, TCP/IP, 各プロトコル)について解説する。また、現在の通信インフラとしてのネットワーク技術や新しいインターネットサービスの利用方法や仕組みについて解説する。	

専門教育科目	展開科目	インタラクティブアプリケーション I	モバイルデバイスを利用したアプリケーションシステムの開発需要が増している。この演習では、スマートフォンなどのモバイルデバイス上で動作するアプリケーションの開発を題材として、インタラクティブなインタフェースの設計やデバイスに搭載されているネットワーク機能、各種センサーを利用したプログラミングへの理解を深めることを目指す。授業ではまず、アプリケーション開発環境の構築について学び、アプリの企画・設計をグループワークで進め、インターネット上の複数のWebサービス、モバイルデバイス上のセンサーを利用したマッシュアップ・アプリケーションの開発を行う。	
専門教育科目	展開科目	インタラクティブアプリケーション II	この演習では、さまざまな分野で応用が期待され、今後普及が想定されるインタフェース技術であるVR（仮想現実）の技術に関して、アプリケーション開発とそのコンテンツ制作を進めながら、VR、AR（拡張現実）、MR（複合現実）といった新たなインタフェース技術に対して理解を深める。授業では、マルチプラットフォーム統合開発エンジンであるUnityを利用したゲーム開発を題材として、ヘッドマウントディスプレイを利用したVRアプリケーションの開発とコンテンツの制作を行う。	
専門教育科目	展開科目	映像表現特講	現代社会では様々な映像作品が制作され、流通している。これらの作品が社会に大きな影響を与えることも少なくない。そこで本講義では、テレビ、映画、ネット動画などの様々な映像表現の最新事情を学習する。各映像制作分野の第一線で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、映像制作分野ではどのような取り組みがなされているか事例を紹介したり、その課題をディスカッションすることで学んでいく。この講義を通じて自身の表現力を高め、今後の作品制作に活かせるようにする。	
専門教育科目	展開科目	メディア情報特講	メディア情報特講では、実際の企業におけるメディア情報企画・活用、システム企画・活用、ネットワーク企画・活用等に関して学習する。メディア情報論、インタフェース論、情報ネットワーク論で学んだ理論が、実際の企業で、どのように行われているのかを学習する。例えば、実際の企業が、どのようにシステムを企画し、要求定義し、開発し、活用しているのか？その際、ユーザエクスペリエンスや評価等は、どのように行っているのか？企業が企画・活用しているシステムとビジネスの関係は、どうなっているのか？上記のような内容を、外部講師による講義も交えながら学習する。また、外部講師との議論も行い理解を深める。	
専門教育科目	社会連携プログラム	メディア基礎演習 A	社会連携プログラムは、学内での講義・演習科目を通して得たメディアの歴史・理論、調査技法、表現技術を社会へと還元しながらさらなる気づきやフィードバックを得ることを目的としたものである。メディア基礎演習Aは、本プログラムの導入的科目であることから、グループワークを通して、実践的な調査・分析・表現を行うための練習課題を繰り返すことにより、自らのスキルを確かなものにしていくことを目標とする。合わせて、企業・団体・地域と連携しながらプロジェクトベースでプログラムを行うことにより、課題発見力・課題解決力を段階的に身につけることを目指す。メディア基礎演習Bとは、プロジェクトテーマが異なる。なお、授業はメディア学部の教授、准教授及び専任講師が主として担当・進行し、運営補助など授業の一部を助教が担う場合がある。	
専門教育科目	社会連携プログラム	メディア基礎演習 B	社会連携プログラムは、学内での講義・演習科目を通して得たメディアの歴史・理論、調査技法、表現技術を社会へと還元しながらさらなる気づきやフィードバックを得ることを目的としたものである。メディア基礎演習Bは、本プログラムの導入的科目であることから、グループワークを通して、実践的な調査・分析・表現を行うための練習課題を繰り返すことにより、自らのスキルを確かなものにしていくことを目標とする。合わせて、企業・団体・地域と連携しながらプロジェクトベースでプログラムを行うことにより、課題発見力・課題解決力を段階的に身につけることを目指す。メディア基礎演習Aとは、プロジェクトテーマが異なる。なお、授業はメディア学部の教授、准教授及び専任講師が主として担当・進行し、運営補助など授業の一部を助教が担う場合がある。	

専門教育科目	社会連携プログラム	メディア実践演習 1	社会連携プログラムは、学内での講義・演習科目を通して得たメディアの歴史・理論、調査技法、表現技術を社会へと還元しながらさらなる気づきやフィードバックを得ることを目的としたものである。メディア実践演習1は、本プログラムの中核をなす科目の一つであり、担当教員の指導の元、学生主導でプログラムを企画し、メディア基礎演習A/Bよりもさらに専門的な調査・分析・発信に関連する活動を行う。2年次までに身に付けたそれぞれのスキルを用いて、実際に自らの足でフィールドに赴き、調査・分析・表現等を行う。企業・団体・地域と連携しながらプロジェクトベースでプログラムを行うことにより、コミュニケーション力、チームワーク力、自己管理能力を育成する。なお、授業はメディア学部の教授、准教授及び専任講師が主として担当・進行し、運営補助など授業の一部を助教が担う場合がある。	
専門教育科目	社会連携プログラム	メディア実践演習 2	社会連携プログラムは、学内での講義・演習科目を通して得たメディアの歴史・理論、調査技法、表現技術を社会へと還元しながらさらなる気づきやフィードバックを得ることを目的としたものである。メディア実践演習2は、本プログラムの中核をなす科目の一つであり、担当教員の指導の元、学生主導でプログラムを企画し、学生主導でプログラムを企画し、さらに専門的な調査・分析・発信に関連する活動を行う。3年次前期までの実践を通して得られた知見について、社会学、社会心理学、芸術学、教育学、情報学など複数の視点からその意義と課題を再検討し、4年次の卒業研究へと結実させていく。なお、授業はメディア学部の教授、准教授及び専任講師が主として担当・進行し、運営補助など授業の一部を助教が担う場合がある。	
専門教育科目	社会連携プログラム	メディア実践演習 3	社会連携プログラムは、学内での講義・演習科目を通して得たメディアの歴史・理論、調査技法、表現技術を社会へと還元しながらさらなる気づきやフィードバックを得ることを目的としたものである。メディア実践演習3は、大学の学問と社会との橋渡しを担う科目の一つであり、担当教員の指導の元、受講者各自が卒業研究に向け、自己の課題を明確化にし、研究計画を立案する支援をする。これまでの学習成果を活用して、卒業論文・作品作成に向けて、自らの問題関心に基づくテーマに関する多様な知見を体系化するとともに、自らそれを掘り下げていく方法を学ぶ。なお、授業はメディア学部の教授、准教授及び専任講師が主として担当・進行し、運営補助など授業の一部を助教が担う場合がある。	
専門教育科目	社会連携プログラム	メディア実践演習 4	社会連携プログラムは、学内での講義・演習科目を通して得たメディアの歴史・理論、調査技法、表現技術を社会へと還元しながらさらなる気づきやフィードバックを得ることを目的としたものである。メディア実践演習4は、大学の学問と社会との橋渡しを担う科目の一つであり、担当教員の指導の元、受講者各自が卒業研究に向け、必要かつ実践的な知識を体系化していく。その過程において、各自の問題関心に基づく、取材、フィールドワーク、質問紙調査等を行うことにより、メディア学の現代的な課題について深く考察するための視野を養う。なお、授業はメディア学部の教授、准教授及び専任講師が主として担当・進行し、運営補助など授業の一部を助教が担う場合がある。	
専門教育科目	社会連携プログラム	インターンシップ入門	インターンシップとは、「学生が在学中に教育の一環として企業等で企業等の指導のもと一定の期間行う就業体験」を指す。学生にとっては、大学における学修の深化に加えて、自己の職業適性の発見や将来設計につながる機会となる等の利点があり、今日多くの大学で取り入れられている。本講義では、上記のインターンシップの意義を理解した上で、本学部社会連携プログラムに位置付けられる「インターンシップ」参加に必要な知識とスキルを身につけることを目的とする。具体的には、インターンシップの目的と意義、メディア業界の構造と職種の特徴、企業・学生の双方から見たインターンシップの利点、インターンシップの学びと学部における専門分野の学修との関係性、インターンシップで必要とされるビジネス・マナー等について取り上げる。	
専門教育科目	社会連携プログラム	インターンシップ（短期）	社会連携プログラムは、学内での講義・演習科目を通して得たメディアの歴史・理論、調査技法、表現技術を社会へと還元しながらさらなる気づきやフィードバックを得ることを目的としたものである。インターンシップ（短期）は、個人の研究テーマや専門科目の学習・研究に関連する課題を発見し、大学以外の場所、例えば企業、NPO、工房、研修・教育機関などを含む、学部の分野に関連する様々な組織や機関において、知識および実的な能力を身につけることを目標とする。企業・団体等において、2週間（10日間）以上の学外研修を行う。なお、短期の研修はメディア学部の教授、准教授及び専任講師が主としてコーディネーションを実施し、研修先訪問など授業の一部を助教が担う場合がある。	

<p>専門教育科目</p>	<p>社会連携プログラム</p>	<p>インターンシップ（長期）</p>	<p>社会連携プログラムは、学内での講義・演習科目を通して得たメディアの歴史・理論、調査技法、表現技術を社会へと還元しながらさらなる気づきやフィードバックを得ることを目的としたものである。インターンシップ（長期）は、個人の研究テーマや専門科目の学習・研究に関連する課題を発見し、大学以外の場所、例えば企業、NPO、工房、研修・教育機関などを含む、学部分野に関連する様々な組織や機関において、知識および実的な能力を身につけることを目標とする。企業・団体等において、4週間（20日間）以上の学外研修を行う。なお、長期の研修はメディア学部の教授、准教授及び専任講師が主としてコーディネーションを実施し、研修先訪問など授業の一部を助教が担う場合がある。</p>	
<p>専門教育科目</p>	<p>卒業研究</p>	<p>卒業研究</p>	<p>本学部4年間の集大成として、卒業論文執筆または卒業制作を行う。卒業論文は、文献研究、実験や調査などの実証的なデータ分析に基づく報告・考察など、卒業制作は、論文以外の種々の表現メディアを用いて制作した作品とする。学生は担当教員の指導の下、執筆または制作を行う。その過程において、中間発表会、最終審査会及び優秀者発表会を設定する。学年の中で優れた卒業研究は、学部全体で選考され、評価される。論文においては、目的、展開、調査方法、分析・考察、結論、書式等の審査基準を満たしていることが必須である。また制作においては、制作目的とメディア・技法の一致、オリジナリティ等があることが求められる。</p>	

学校法人目白学園 認可設置等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
目白大学 <small>全て3年次</small>				目白大学 <small>全て3年次</small>				
人間学部				人間学部				
心理カウンセリング学科	120	10	500	心理カウンセリング学科	120	10	500	
人間福祉学科	100	10	420	人間福祉学科	100	10	420	
子ども学科	140	10	580	子ども学科	140	10	580	
児童教育学科	50	-	200	児童教育学科	50	-	200	
社会学部				社会学部				
社会情報学科	120	5	490	社会情報学科	120	5	490	
メディア表現学科	120	5	490		0	0	0	平成30年4月学生募集停止
地域社会学科	80	5	330	地域社会学科	80	5	330	
				メディア学部				学部の設置(認可申請)
				メディア学科	140	-	560	
経営学部				経営学部				
経営学科	130	5	530	経営学科	130	5	530	
外国語学部				外国語学部				
英米語学科	80	5	330	英米語学科	80	5	330	
中国語学科	40	-	160	中国語学科	40	-	160	
韓国語学科	60	-	240	韓国語学科	60	-	240	
日本語・日本語教育学科	40	-	160	日本語・日本語教育学科	40	-	160	
保健医療学部				保健医療学部				
理学療法学科	85	-	340	理学療法学科	85	-	340	
作業療法学科	60	-	240	作業療法学科	60	-	240	
言語聴覚学科	40	-	160	言語聴覚学科	40	-	160	
看護学部				看護学部				
看護学科	105	-	420	看護学科	105	-	420	
計	1370	55	5590	計	1390	50	5660	
目白大学大学院				目白大学大学院				
国際交流研究科				国際交流研究科				
国際交流専攻(M)	20	-	40	国際交流専攻(M)	20	-	40	
心理学研究科				心理学研究科				
現代心理学専攻(M)	20	-	40	現代心理学専攻(M)	20	-	40	
臨床心理学専攻(M)	30	-	60	臨床心理学専攻(M)	30	-	60	
心理学専攻(D)	3	-	9	心理学専攻(D)	3	-	9	
経営学研究科				経営学研究科				
経営学専攻(M)	20	-	40	経営学専攻(M)	20	-	40	
経営学専攻(D)	3	-	9	経営学専攻(D)	3	-	9	
生涯福祉研究科				生涯福祉研究科				
生涯福祉専攻(M)	20	-	40	生涯福祉専攻(M)	20	-	40	
言語文化研究科				言語文化研究科				
英語・英語教育専攻(M)	10	-	20	英語・英語教育専攻(M)	10	-	20	
日本語・日本語教育専攻(M)	10	-	20	日本語・日本語教育専攻(M)	10	-	20	
中国・韓国言語文化専攻(M)	10	-	20	中国・韓国言語文化専攻(M)	10	-	20	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻(M)	15	-	30	看護学専攻(M)	15	-	30	
リハビリテーション学研究科				リハビリテーション学研究科				
リハビリテーション学専攻(M)	15	-	30	リハビリテーション学専攻(M)	15	-	30	
計	176		358	計	176		358	
目白大学短期大学部				目白大学短期大学部				
生活科学科	80	-	160	生活科学科	75	-	150	(定員変更 △5)
製菓学科	80	-	160	製菓学科	70	-	140	(定員変更 △10)
ビジネス社会学科	60	-	120	ビジネス社会学科	75	-	150	(定員変更 15)
計	220		440	計	220		440	